

# 総合計画市民アンケート 報告書

平成 23 年（2011 年）7 月

横須賀市



## はじめに

横須賀市では、平成 10 年に策定した横須賀市総合計画にもとづき、「国際海の手文化都市」を目指したまちづくりを進めています。この総合計画は市政運営の方向性を示す最も上位の計画で、平成 37 年を目標としてまちづくりの基本的方向を示した「基本構想」、その期間をおおむね二分して施策の体系を示した「基本計画」、3 年ごとの主要事業を示した「実施計画」の三つによって構成されています。

平成 23 年 4 月からは、市の基本的な政策・施策の体系、政策の目標などを示した、新たな基本計画、実施計画が同時にスタートしました。

本計画には、計画の着実な推進を図るため、定期的な進行管理を行っていくとの記載があり、その具体的な手法の一つに、「市民アンケートによる政策の推進状況の把握」が明記されております。

そこで今回、15 歳以上の 2,000 人の方を対象に、「本市の魅力」や「政策・施策」などに対する、市民の皆さんの実感を伺うアンケート調査を実施しました。

この調査で得られた結果は、基本計画の進行管理のみならず、分野別計画などを策定する際の基礎資料として十分に活用してまいります。

本調査にご協力いただきました皆さまには厚くお礼申し上げます。

平成 23 年（2011 年）7 月

横須賀市都市政策研究所

### 報告書の見方

報告書の中の図表は、以下のように処理している。

- ①回答率（％）は、小数点以下第 2 位を四捨五入したため、合計が 100％とならない場合がある。
- ②前回調査比較の図表は、平成 20 年（2008 年）6 月に実施した「基本計画策定のための市民アンケート」との比較。当該アンケートと今回の調査では、調査対象者数、回収率は異なるが（5,000 人、回収率 43.5％）、比較した設問は内容を同様にしてている。

## 本報告書の構成について

本報告書は「政策形成編」と「基本計画進行管理編」で構成されている。

### 【政策形成編】

これまで本市では、基本計画、実施計画策定の前年に、重点的な取り組むべき施策等の方向性を見いだすため、「まちづくり市民アンケート（政策・施策編）」「基本計画策定のための市民アンケート」を実施してきた。

「政策形成編」は、これらアンケートの設問のうち、「横須賀のイメージ」「魅力」「優先すべき政策」など、これまで経年的に調査してきた設問を中心に、新規設問なども加え、政策形成に必要となる市民意識に関する調査結果を述べている。

### 【基本計画進行管理編】

平成23年度からスタートした「横須賀市基本計画（2011～2021）」では計画の着実な推進を図るため、定期的な進行管理を行うと記述されている。

具体的な手法については、資料編（138～142 p）に記載されており、市民の実感（主観的要素）と行政活動の目標となる「指標」の動向（客観的要素）の二つの組み合わせにより政策（中柱）の進捗状況を確認、評価するとしている。

このうち、市民の実感についてはアンケート調査で把握するとしており、「基本計画進行管理編」は、各政策の進捗状況に関する調査結果を述べている。

なお、今回の調査結果が進行管理における評価の基準値となる。

## 目 次

I. 調査目的および実施方法等	4
-----------------	---

### 政策形成編

II. 調査結果の概要（単純集計結果）	8
---------------------	---

III. 集計結果	11
-----------	----

1. 横須賀の魅力的なところ（問1）	11
2. 横須賀市への愛着心（問2）	13
3. 横須賀市の都市イメージ（問3）	15
4. 横須賀市の住み良さ（問4）	17
5. 横須賀市への定住意向（問5）	20
6. 市民参加型事業への参加状況（問6）	26
7. 自治基本条例の認知度（問7）	33
8. 日常生活に必要な情報の入手先（問8）	34
9. 日常生活の困りごと相談する場所としての市役所の利用のしやすさ（問9）	37
10. 米軍基地に対する考え（問10）	38
11. 自衛隊基地に対する考え（問11）	43
12. 日々の暮らしにかかわる市役所サービスに対する満足度（問12）	47
13. 政策の優先度（問13）	49

### 基本計画進行管理編

IV. 基本計画の進行管理について	60
-------------------	----

V. 集計結果	62
---------	----

14. 政策に対する実感（問14）	62
-------------------	----

VI. 基本的な属性（F1～F7）	72
-------------------	----

調査票	75
-----	----

## I 調査目的および実施方法

### 1 調査目的

「国際海の手文化都市」の実現に向け、基本計画、実施計画の着実な推進を図るため、政策形成に必要な市民意識および計画の進行管理の評価基準となる市民の実感を把握する。

### 2 調査項目

問1 横須賀の魅力的なところ  
問2 横須賀市への愛着  
問3 横須賀市の都市イメージ  
問4 横須賀市の住み良さ  
問5 横須賀市への定住意向  
    問5-1 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ  
    問5-2 転出意向がある人が住み続けなくなるきっかけ  
問6 市民参加型事業への参加状況  
    問6-1 参加した活動の内容  
    問6-2 今後の参加意向  
問7 自治基本条例の認知度  
問8 日常生活に必要な情報の入手先  
問9 日常生活の困りごとなどを相談する場所としての市役所の利用のしやすさ  
問10 米軍基地に対する考え  
    問10-1 あった方がよい理由  
    問10-2 ない方がよい理由  
問11 自衛隊基地に対する意見  
    問11-1 あった方がよい理由  
    問11-2 ない方がよい理由  
問12 日々の暮らしにかかわる市役所サービスに対する満足度

問13 政策の優先度  
問14 政策に対する実感  
    ・まちづくり政策  
        (1) いきいきとした交流が広がるまち  
        (2) 海と緑を生かした活気あふれるまち  
        (3) 個性豊かな人と文化が育つまち  
        (4) 健康でやさしい心のふれあうまち  
        (5) 安全で快適に暮らせるまち  
    ・まちづくりの推進姿勢  
        (1) 市民協働によるまちづくりの推進  
        (2) 効率的な都市経営の推進  
        (3) 地方分権と広域連携の推進  
  
<基本的な属性>  
F1 性別  
F2 年齢  
F3 お住まいの地域  
F4 職業  
F5 世帯の状況  
F6 横須賀市に住んでいる年数  
F7 現在の住宅の形態

### 3 調査対象および回収数等

- ・調査対象

市内在住の15歳以上の市民2,000人

(平成23年3月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出)

- ・回収数および回収率

回収数	回収率
914件	45.7%

### 4 調査実施方法

- ・郵送による発送・回収

なお、回収率向上のため、調査期間中(3月22日(火))に協力依頼状(ハガキ)を調査対象者(転居者等を除く)に送付した。

### 5 実施期間

- ・平成23年3月9日(水)～3月28日(月)

### 6 調査の企画・分析

- ・横須賀市政策推進部政策推進課(都市政策研究所)



# 政策形成編

---

---

## Ⅱ 調査結果の概要(単純集計結果)

---

---

### 1 横須賀の魅力的なところ(問1)【複数回答 項目を3つまで選択可】

- ・8割以上の回答者が本市の魅力として「海や緑などの自然環境に恵まれている」を選択した。

### 2 横須賀市への愛着(問2)【新規設問】

- ・「感じる」「やや感じている」をあわせると回答者全体の8割近くが、本市への愛着を感じているという結果となった。

### 3 横須賀市のイメージ(問3)【複数回答 項目を3つまで選択可】

- ・現在の都市イメージとして「米軍基地・自衛隊がある『基地のまち』」が最も多く選択され、回答者全体の9割以上を占めた。次いで「豊かな自然が残されている『自然環境に恵まれたまち』」が5割弱で高い割合となった。
- ・望ましい都市イメージとしては、「防犯・防災体制が整った『安全・安心なまち』」「高齢者・障害者をはじめとした『誰もが安心して暮らせるまち』」や「施設や医療機関が充実した『健康増進・医療福祉のまち』」の割合が高く、現在の都市イメージとは異なった項目が挙げられた。

### 4 横須賀市の住み良さ(問4)

- ・「住み良い」「まあまあ住み良い」と合わせると回答者全体の約9割を占め、多くの人が住み良いと感じている。

### 5 横須賀市への定住意向(問5)

- ・「今住んでいるところに住み続けたい」「横須賀市内のどこかに住み続けたい」が回答者全体の8割以上を占めた。
- ・これらの回答者(定住意向を持つ人)の気持ちが変わる理由としては、「自然環境が今よりも豊かでなくなる」が最も多く、半数を占め、次いで、「道路・公園などの都市基盤が今よりも整備されず、生活環境が悪くなる」が高い割合を示した(複数回答可)。
- ・一方、「市外に転居したい」と回答した人の気持ちが変わる理由は「交通の便が今よりも良くなる」が最も高く、回答者全体の4割強を占めた(複数回答可)。

## 6 市民参加型事業への参加状況（問6）

- ・地域活動に「参加、参画している」を選択した回答者は2割を若干超える程度。
- ・参加、参画している地域活動は、「地域のまちづくり活動（町内会、PTA、子ども会の役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など）」が全体の8割以上を占める。
- ・一方、「参加、参画していない」を選択した回答者うち、今後の参加意向がある人の割合は3割強で、希望する活動内容は「地域のまちづくり活動（町内会、PTA、子ども会の役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など）」が最も高く、全体の5割以上を占める。
- ・また、「今後も参加・参画したいと思わない」を選択した回答者の理由は、「興味はあるが時間的余裕がない」「興味はあるがきっかけや情報がない」の割合が高く、活動に関心は抱いているものの行動には結びついていない傾向がみられる。

※地域活動：「地域のまちづくり活動」「ボランティア活動」「NPO活動」「市が呼びかけた市民参加型事業」など。

## 7 自治基本条例の認知度（問7）【新規設問】

- ・「内容まで知っている」を選択した回答者はわずかであったが、「ある程度知っている」「名称は見た（聞いた）ことがある」を合わせると2割強となる。

## 8 日常生活の中で必要な情報の入手先（問8）【複数回答 項目を3つまで選択可】

- ・回答者の7割が「テレビ」を選択した。これに次いで「新聞・チラシ」「広報よこすか」が5割程度となった。

## 9 日常生活の困りごとなどを相談する場所としての

### 市役所の利用のしやすさ（問9）【新規設問】

- ・「どちらともいえない」を選択した回答者の割合が最も高い。
- ・「思う」「やや思う」の肯定的な回答を合わせると3割を超え、「思わない」「あまり思わない」と否定的な回答を上回った。

## 10 米軍基地に対する考え（問 10）

- ・「あった方がよい」と回答した人は3割を超え「ない方がよい」と回答した人を約2割上回った。
- ・「あった方がよい」を選択した回答者のうち約5割が、「日本の安全上必要」であることを理由として挙げている。
- ・「ない方がよい」を選択した回答者は約2割で、その理由のうち最も高い割合を示したのは、「犯罪や事故が心配だから」であった。

## 11 自衛隊基地に対する考え（問 11）

- ・5割以上の回答者が「あった方がよい」を選択。「ない方がよい」を大きく上回った。
- ・「あった方がよい」を選択した回答者の5割以上が、「日本の安全上必要だから」を理由として挙げている。また、「災害が起こったときに心強いから」も4割強と高い割合を示している。

## 12 日々の暮らしにかかわる市役所サービスに対する満足度（問 12）【新規設問】

- ・「ほぼ満足している」が4割弱で最も高く、「どちらともいえない」の割合が、2番目に高い。
- ・「満足」「ほぼ満足」の肯定的な回答をした人の割合は4割を超え、「不満である」「やや不満である」と否定的な回答をした人を大幅に上回った。

## 13 政策の優先度（問 13）【複数回答 項目を3つまで選択可】

- ・「地域経済の振興と雇用の安定」を半数の人が選択している。
- ・次いで「高齢者福祉支援」の割合が約4割と高く、「市民生活の安全・安心の向上」「自然環境の保全・創出」「子育て支援」の順に選択されている。

注) 【新規設問】 今回のアンケート調査で新たに設問したもの。

### Ⅲ 集計結果

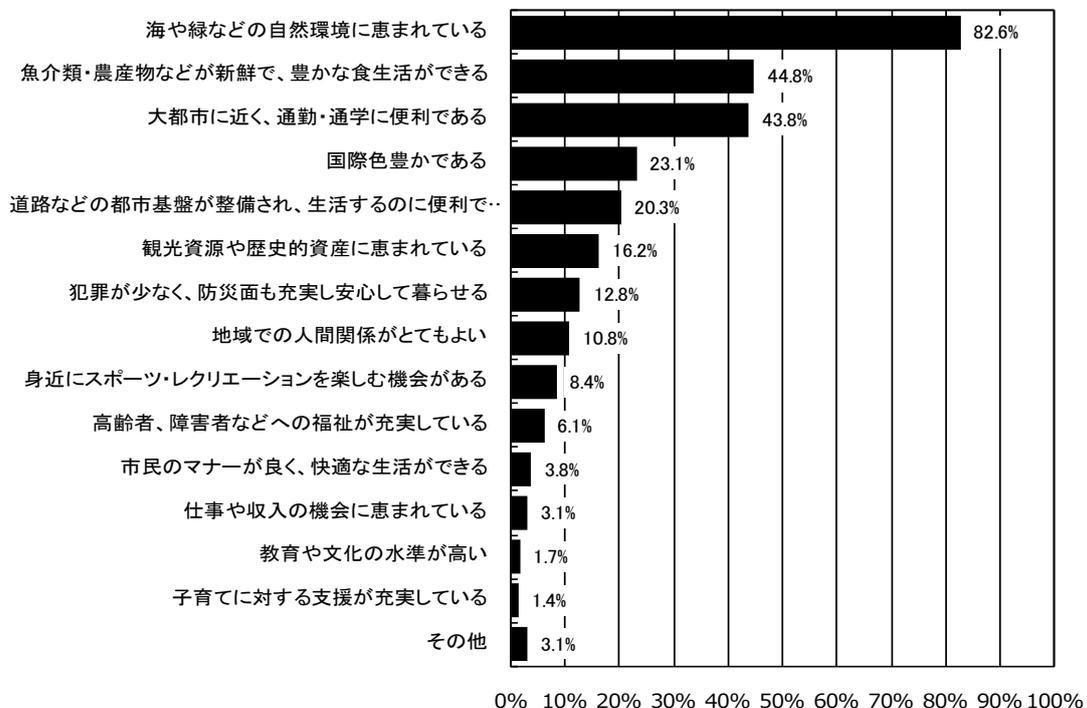
#### Ⅰ 横須賀の魅力について

問1 あなたにとって横須賀の魅力的なところとは、どのようなところだと思いますか。  
次の中からあてはまるものを順に3つまで選んでください。

本市の魅力として8割以上の回答者が「海や緑などの自然環境に恵まれている」を選択した（複数回答）。

- ・「海や緑などの自然環境に恵まれている」が82.6%と最も多く、次いで、「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」（44.8%）、「大都市に近く、通勤・通学に便利である」（43.8%）、「国際色豊かである」（23.1%）などが多く挙げられている。
- ・上位の3項目については、前回調査（平成20年6月実施）と変化が見られないが、「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」が7.6ポイント上昇している（図表Ⅰ-2）。この一因として、地産地消の取り組みの推進などにより、市の魅力としての認識が高まったことが考えられる。

（図表Ⅰ-1 横須賀の魅力的なところ n=901）



(図表 I-2 横須賀の魅力的なところ 前回調査比較)

	平成 20 年 6 月調査		平成 23 年 3 月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	海や緑などの自然環境に恵まれている	83.1	海や緑などの自然環境に恵まれている	82.6
2 位	大都市に近く、通勤・通学に便利である	42.4	魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	44.8
3 位	魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	37.2	大都市に近く、通勤・通学に便利である	43.8

## 【属性別の傾向】

## 年齢別 (図表 I-3)

- ・全体の、回答割合が最も高い、「海や緑などの自然環境に恵まれている」は、30 歳代後半から 40 歳代前半で多く選択されている。
- ・「国際色豊かである」が、若年層で強く魅力として捉えられている傾向がみられる。

(図表 I-3 横須賀の魅力的なところ 年齢別 n=884)

	件数 (人)	単位 (%)														
		教育や文化の水準が高い	子育てに対する支援が充実している	高齢者、障害者などへの福祉が充実している	道路などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である	身近にスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会がある	犯罪が少なく、防災面も充実し安心して暮らせる	大都市に近く、通勤・通学に便利である	仕事や収入の機会に恵まれている	海や緑などの自然環境に恵まれている	魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	観光資源や歴史的資産に恵まれている	国際色豊かである	市民のマナーが良く、快適な生活ができる	地域での人間関係がとてもよい	その他
全体	901	1.7	1.4	6.1	20.3	8.4	12.8	43.8	3.1	82.6	44.8	16.2	23.1	3.8	10.8	3.1
15-19歳	38	-	-	10.5	21.1	5.3	7.9	42.1	-	76.3	34.2	28.9	36.8	2.6	15.8	2.6
20-24歳	31	-	-	-	16.1	3.2	16.1	38.7	6.5	83.9	45.2	12.9	54.8	3.2	6.5	-
25-29歳	34	2.9	-	-	32.4	8.8	5.9	35.3	-	85.3	38.2	17.6	52.9	8.8	2.9	2.9
30-34歳	51	2.0	2.0	2.0	23.5	3.9	15.7	41.2	7.8	84.3	43.1	9.8	27.5	3.9	9.8	3.9
35-39歳	83	-	-	2.4	16.9	12.0	14.5	34.9	2.4	90.4	44.6	16.9	26.5	6.0	6.0	4.8
40-44歳	72	1.4	2.8	2.8	12.5	6.9	13.9	38.9	4.2	88.9	44.4	16.7	27.8	4.2	9.7	2.8
45-49歳	60	-	1.7	1.7	21.7	-	8.3	43.3	5.0	78.3	56.7	21.7	16.7	3.3	11.7	5.0
50-54歳	68	-	-	1.5	16.2	4.4	8.8	57.4	5.9	77.9	45.6	13.2	27.9	4.4	5.9	2.9
55-59歳	95	1.1	-	6.3	20.0	5.3	8.4	53.7	3.2	82.1	46.3	17.9	29.5	2.1	8.4	2.1
60-64歳	88	-	2.3	4.5	14.8	10.2	11.4	53.4	4.5	83.0	47.7	14.8	20.5	3.4	13.6	2.3
65-69歳	98	-	4.1	9.2	14.3	12.2	15.3	36.7	2.0	83.7	50.0	10.2	10.2	1.0	24.5	4.1
70-74歳	99	4.0	1.0	15.2	26.3	14.1	15.2	42.4	1.0	79.8	43.4	17.2	8.1	3.0	12.1	4.0
75歳以上	67	10.4	3.0	13.4	32.8	11.9	17.9	44.8	-	79.1	37.3	14.9	11.9	7.5	3.0	1.5

※年齢別のサンプル数は 884 件で全体数 (年齢不詳を含む) とは異なる。

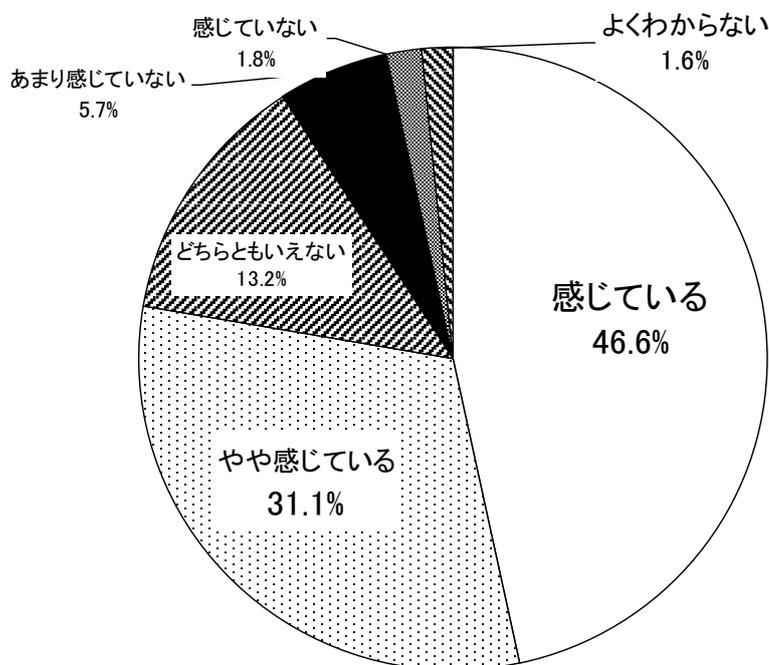
## II 横須賀市への愛着やイメージ、住みよさについて

### ii-1 横須賀市への愛着

問2 あなたは横須賀市に自分のまちとしての愛着を感じますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

回答者の8割近くが、横須賀市に愛着を感じている。

(図表Ⅱ-1 横須賀市への愛着 n=910)



#### 【属性別の傾向】

##### (1) 年齢別 (図表Ⅱ-2)

- ・ 全体な回答傾向として「25 - 29歳」以下の年齢層で「感じている」「やや感じている」の合計割合が低く、35歳以上の年齢層では高い傾向がみられる。
- ・ このようななか、「40 - 44歳」で「感じている」「やや感じている」の合計割合が低くなっており、「どちらともいえない」の回答割合が他より高くなっている。

(図表Ⅱ - 2 横須賀市への愛着 年齢別 n=892)

	件数 (人)	単位 (%)							
		感じている (A)	やや感じている (B)	(A)+(B)	どちらともいえない	あまり感じていない (C)	感じていない (D)	(C)+(D)	よくわからない
全体	910	46.6	31.1	77.7	13.2	5.7	1.8	7.5	1.6
15 - 19歳	38	36.8	36.8	73.6	13.2	5.3	0.0	5.3	7.9
20 - 24歳	31	48.4	25.8	74.2	12.9	3.2	3.2	6.4	6.5
25 - 29歳	35	51.4	20.0	71.4	14.3	5.7	2.9	8.6	5.7
30 - 34歳	51	56.9	23.5	80.4	7.8	9.8	2.0	11.8	0.0
35 - 39歳	83	53.0	26.5	79.5	10.8	7.2	2.4	9.6	0.0
40 - 44歳	72	37.5	29.2	66.7	20.8	11.1	0.0	11.1	1.4
45 - 49歳	60	45.0	35.0	80.0	8.3	5.0	5.0	10.0	1.7
50 - 54歳	68	42.6	36.8	79.4	8.8	10.3	1.5	11.8	0.0
55 - 59歳	96	49.0	29.2	78.2	15.6	5.2	0.0	5.2	1.0
60 - 64歳	88	52.3	29.5	81.8	11.4	4.5	1.1	5.6	1.1
65 - 69歳	98	42.9	37.8	80.7	14.3	1.0	3.1	4.1	1.0
70 - 74歳	104	36.5	38.5	75.0	16.3	5.8	1.9	7.7	1.0
75歳以上	68	55.9	27.9	83.8	11.8	1.5	1.5	3.0	1.5

※年齢別のサンプル数は892件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

## (2) 居住年数別 (図表Ⅱ-3)

- ・ 全体な回答傾向として、「感じている」「やや感じている」合計割合は、居住年数に比例して高くなる傾向がみられる。
- ・ このようななか、「10 - 14年」では「感じている」「やや感じている」の合計割合が低く、「あまり感じていない」の回答の割合が他より若干高くなっている。

(図表Ⅱ - 3 横須賀市への愛着 居住年数別 n=894)

	件数 (人)	単位 (%)						
		感じている (A)	やや感じている (B)	(A)+(B)	どちらともいえない	あまり感じていない	感じていない	よくわからない
全体	910	46.6	31.1	77.7	13.2	5.7	1.8	1.6
1年未満	10	10.0	40.0	50.0	30.0	10.0	-	10.0
1 - 3年	33	21.2	33.3	54.5	21.2	12.1	6.1	6.1
4 - 9年	65	33.8	29.2	63.0	21.5	12.3	3.1	-
10 - 14年	50	18.0	42.0	60.0	20.0	14.0	2.0	4.0
15 - 19年	68	33.8	39.7	73.5	14.7	2.9	2.9	5.9
20 - 24年	61	45.9	39.3	85.2	8.2	6.6	-	-
25年以上	605	53.7	28.8	82.5	11.2	4.0	1.5	0.8

※居住年数別のサンプル数は894件で全体数(居住年数不詳を含む)とは異なる。

## ii-2 横須賀市の都市イメージ

問3 あなたが考える横須賀市のイメージについて、次の中からあてはまるものを順に3つまで選び、現在の都市イメージを（A欄）に、また、望ましい都市イメージを（B欄）にそれぞれ記入してください。

### （1）現在の都市イメージ

現在の都市イメージとして、9割の回答者が「米軍基地・自衛隊がある『基地のまち』」を選択。

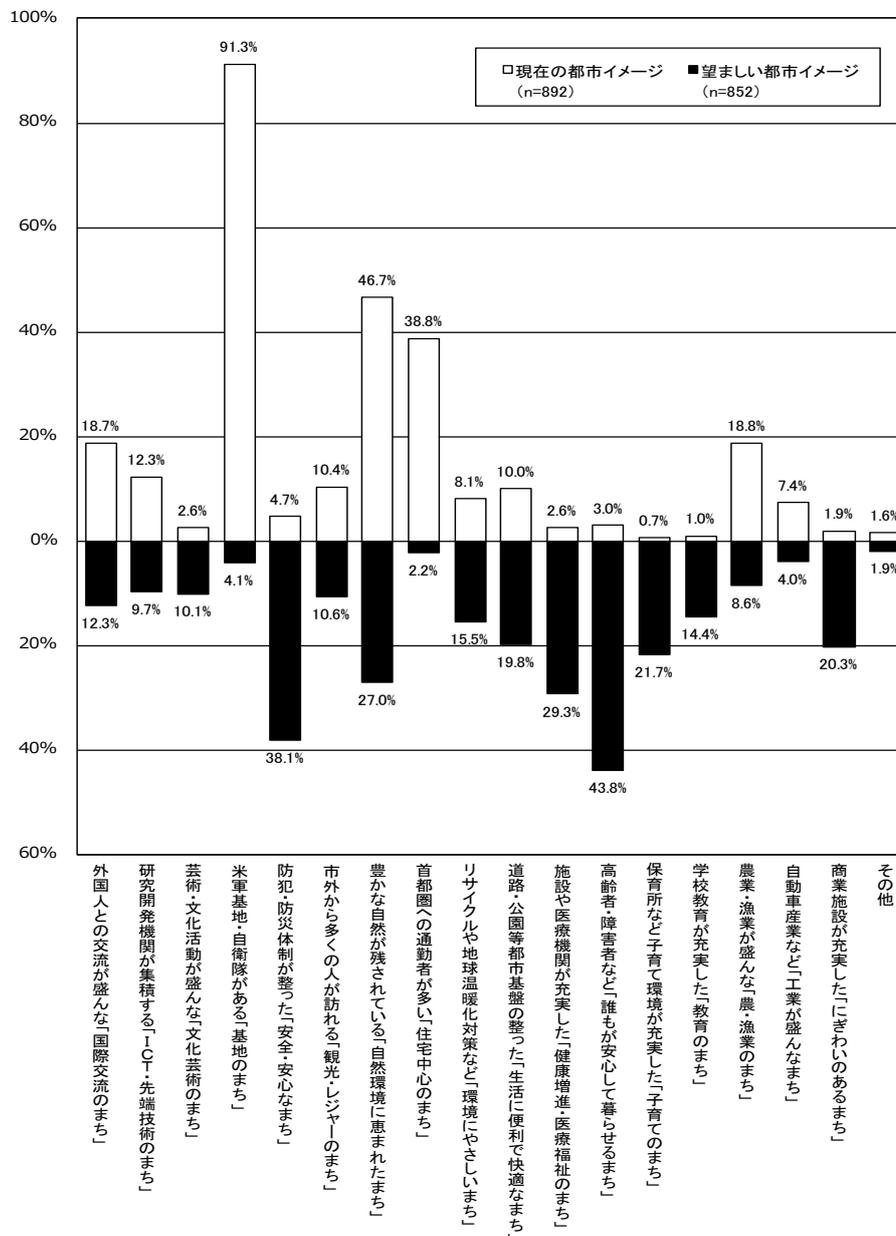
- ・「米軍基地・自衛隊がある『基地のまち』」が91.3%で、他の項目と比較して突出して高い値となっている。
- ・次いで「豊かな自然が残されている『自然環境に恵まれたまち』」（46.7%）、「首都圏への通勤者が多い『住宅中心のまち』」（38.8%）の順に選択された。

### （2）望ましい都市イメージ

望ましい都市イメージは、「高齢者・障害者をはじめとした『誰もが安心して暮らせるまち』」、防犯・防災体制が整った『安全・安心なまち』」

- ・「高齢者・障害者をはじめとした『誰もが安心して暮らせるまち』」（43.8%）「防犯・防災体制が整った『安全・安心なまち』」（38.1%）「施設や医療機関が充実した『健康増進・医療福祉のまち』」（29.3%）」が高い割合を示した。
- ・調査実施期間中に東日本大震災が発生したこともあり、安全で安心な暮らしを望む傾向が強く表れたと考えられる。

(図Ⅱ - 4 現在の都市イメージと望ましい都市イメージ n=910)

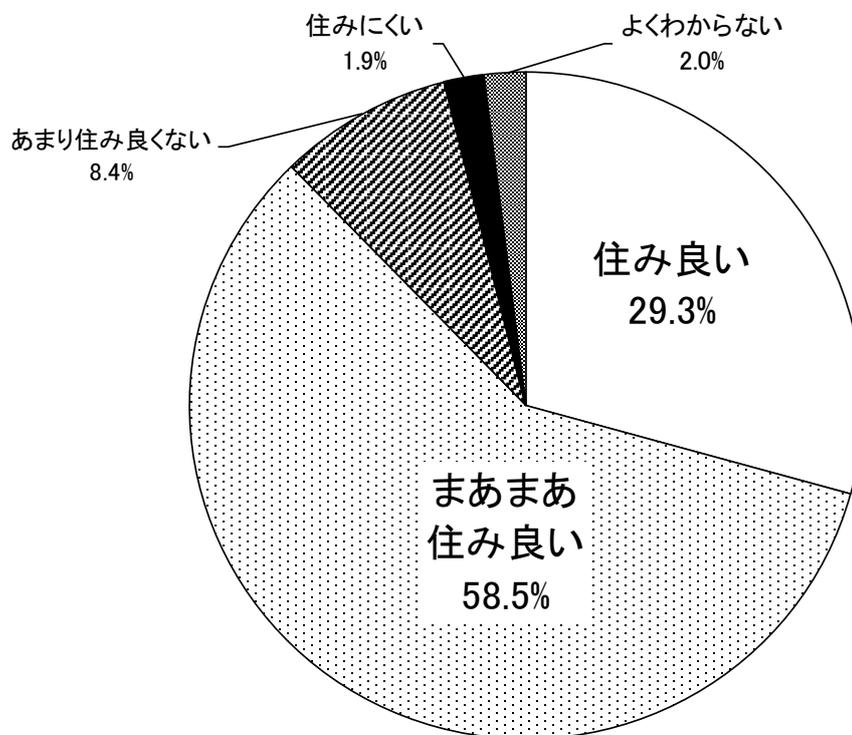


### ii-3 横須賀市の住みよさ

問4 あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

9割の回答者が「住み良い」「まあまあ住み良い」を選択。

(図表Ⅱ-5 横須賀市の住み良さ n=909)



#### 【属性別の傾向】

##### (1) 年齢別 (図表Ⅱ-6)

- ・全体に比べ、「25 - 29 歳」「40 - 44 歳」の年齢層で「住み良い」「まあまあ住み良い」の合計割合が10ポイント以上低い割合を示した。
- ・住みよさについて、特に40歳代の評価が低い傾向がみられる。一方で、50歳代は9割以上の回答者が「住み良い」「まあまあ住み良い」を選択しており、両者の間で大きな差が生じている。

(図表Ⅱ-6 横須賀市の住み良さ 年齢別 n=894)

	件数(人)	(単位 %)						
		住み良い (A)	まあまあ 住み良い(B)	(A)+(B)	あまり住み 良くない(C)	住みにくい (D)	(C)+(D)	よくわからない
<b>全体</b>	<b>909</b>	<b>29.3</b>	<b>58.5</b>	<b>87.8</b>	<b>8.4</b>	<b>1.9</b>	<b>10.3</b>	<b>2.0</b>
15-19歳	38	31.6	55.3	<b>86.9</b>	2.6	-	<b>2.6</b>	10.5
20-24歳	31	29.0	54.8	<b>83.8</b>	9.7	6.5	<b>16.2</b>	-
25-29歳	35	22.9	54.3	<b>77.2</b>	14.3	-	<b>14.3</b>	8.6
30-34歳	51	35.3	54.9	<b>90.2</b>	5.9	3.9	<b>9.8</b>	-
35-39歳	83	26.5	62.7	<b>89.2</b>	9.6	-	<b>9.6</b>	1.2
40-44歳	72	23.6	48.6	<b>72.2</b>	23.6	1.4	<b>25.0</b>	2.8
45-49歳	60	21.7	61.7	<b>83.4</b>	10.0	6.7	<b>16.7</b>	-
50-54歳	68	25.0	69.1	<b>94.1</b>	5.9	-	<b>5.9</b>	-
55-59歳	96	25.0	67.7	<b>92.7</b>	4.2	-	<b>4.2</b>	3.1
60-64歳	88	35.2	54.5	<b>89.7</b>	6.8	3.4	<b>10.2</b>	-
65-69歳	98	35.7	55.1	<b>90.8</b>	4.1	2.0	<b>6.1</b>	3.1
70-74歳	104	28.8	60.6	<b>89.4</b>	8.7	1.0	<b>9.7</b>	1.0
75歳以上	70	38.2	52.9	<b>91.1</b>	4.4	2.9	<b>7.3</b>	1.5

※年齢別のサンプル数は894件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

## (2) 居住地別(図表Ⅱ-7)

- ・「住み良い」「まあまあ住み良い」と回答した人の合計割合が、全体の回答割合より高い地域は、「本庁」「田浦地区」「逸見地区」など旧市街地に多くみられる。
- ・一方、全体の回答割合より低い値を示したのは、「追浜地区」「大津地区」「衣笠地区」「西地区」などで、「西地区」の値が最も低い。

(図表Ⅱ-7 横須賀市の住み良さ 居住地域別 n=892)

	件数(人)	(単位 %)						
		住み良い (A)	まあまあ 住み良い(B)	(A)+(B)	あまり住み 良くない(C)	住みにくい (D)	(C)+(D)	よくわからない
<b>全体</b>	<b>909</b>	<b>29.3</b>	<b>58.5</b>	<b>87.8</b>	<b>8.4</b>	<b>1.9</b>	<b>10.3</b>	<b>2.0</b>
本庁地域	128	29.9	61.4	91.3	5.5	2.4	7.9	0.8
追浜地域	69	26.1	58.0	84.1	13.0	1.4	14.4	1.4
田浦地域	41	17.1	75.6	92.7	4.9	2.4	7.3	-
逸見地域	23	39.1	52.2	91.3	4.3	4.3	8.6	-
衣笠地域	118	33.9	54.2	88.1	8.5	0.8	9.3	2.5
大津地域	103	25.2	61.2	86.4	10.7	2.9	13.6	-
浦賀地域	107	35.8	51.9	87.7	8.5	-	8.5	3.8
久里浜地域	141	30.5	60.3	90.8	6.4	1.4	7.8	1.4
北下浦地域	59	35.6	55.9	91.5	3.4	-	3.4	5.1
西地域	103	21.4	58.3	79.7	12.6	4.9	17.5	2.9

※居住地域別のサンプル数は892件で全体数(居住地域不詳を含む)とは異なる。

(3) 居住年数別 (図表Ⅱ-8)

- ・「住みよい」「まあまあ住みよい」の合計割合は、概ね居住年数に比例して高くなる傾向がみられる。このようななか、「10 - 14年」では「住みよい」「まあまあ住みよい」の合計割合が若干低くなっている。
- ・居住年数 20 年以上では、「住み良い」「まあまあ住み良い」と回答した人の合計割合は 90% を超える。

(図表Ⅱ-8 横須賀市の住み良さ 居住年数別 n=892)

	件数 (人)	単位 (%)						
		住み良い (A)	まあまあ 住み良 (B)	(A)+(B)	あまり住み 良くない (C)	住みにくい (D)	(C)+(D)	よくわからない
全体	909	29.3	58.5	87.8	8.4	1.9	10.3	2.0
1年未満	10	10.0	60.0	70.0	20.0	0.0	20.0	10.0
1-3年	33	15.2	57.6	72.8	18.2	3.0	21.2	6.1
4-9年	65	21.5	60.0	81.5	10.8	3.1	13.9	4.6
10-14年	50	12.0	66.0	78.0	14.0	4.0	18.0	4.0
15-19年	68	19.1	63.2	82.3	8.8	4.4	13.2	4.4
20-24年	61	21.3	68.9	90.2	6.6	0.0	6.6	3.3
25年以上	605	34.5	56.2	90.7	6.9	1.5	8.4	0.8

※居住年数別のサンプル数は 892 件で全体数 (居住年数不詳を含む) とは異なる。

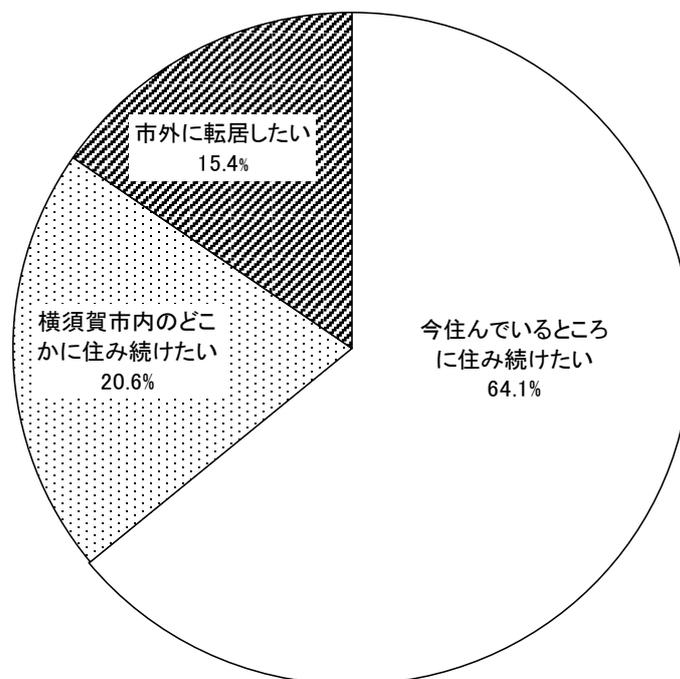
## ii-4 横須賀市への定住意向

問5 あなたは、現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- ・ 8割以上の回答者が「今住んでいるところに住み続けたい」「横須賀市内のどこかに住み続けたい」を選択。
- ・ 転居したいと回答した人の割合が高い年齢層は24歳以下と40歳代。

- ・ 「今住んでいるところに住み続けたい」「横須賀市内のどこかに住み続けたい」をあわせると回答者全体の84.7%を占める。この結果については、平成20年のアンケート調査結果(84.4%)と大きな差は見られない。
- ・ 年齢別でみると、高齢層で高く、若年層では低い傾向がみられる(図Ⅱ-10)。
- ・ 特に40歳代の定住意向が低いことが特徴として見られ、「市外に転居したい」と回答した40-44歳の値は、32.4%で、全体の回答割合との比較で倍以上の値を示している(図表Ⅱ-10)。

(図表Ⅱ-9 横須賀市への定住意向 n=871)



(図表Ⅱ-10 横須賀市への定住意向 年齢別 n=857)

	件数(人)	(単位 %)			
		今住んでいるところに 住み続けたい(A)	横須賀市内のどこかに 住み続けたい(B)	(A) + (B)	市外に転居したい
全体	871	64.1	20.6	84.7	15.4
15-19歳	38	50.0	13.2	63.2	36.8
20-24歳	31	32.3	38.7	71.0	29.0
25-29歳	35	37.1	42.9	80.0	20.0
30-34歳	49	63.3	22.4	85.7	14.3
35-39歳	82	65.9	20.7	86.6	13.4
40-44歳	68	42.6	25.0	67.6	32.4
45-49歳	59	54.2	23.7	77.9	22.0
50-54歳	67	64.2	25.4	89.6	10.4
55-59歳	93	66.7	23.7	90.4	9.7
60-64歳	81	76.5	16.0	92.5	7.4
65-69歳	95	74.7	10.5	85.2	14.7
70-74歳	95	78.9	11.6	90.5	9.5
75歳以上	64	78.1	15.6	93.7	6.3

※年齢別のサンプル数は857件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

## ii - 4 - (1)

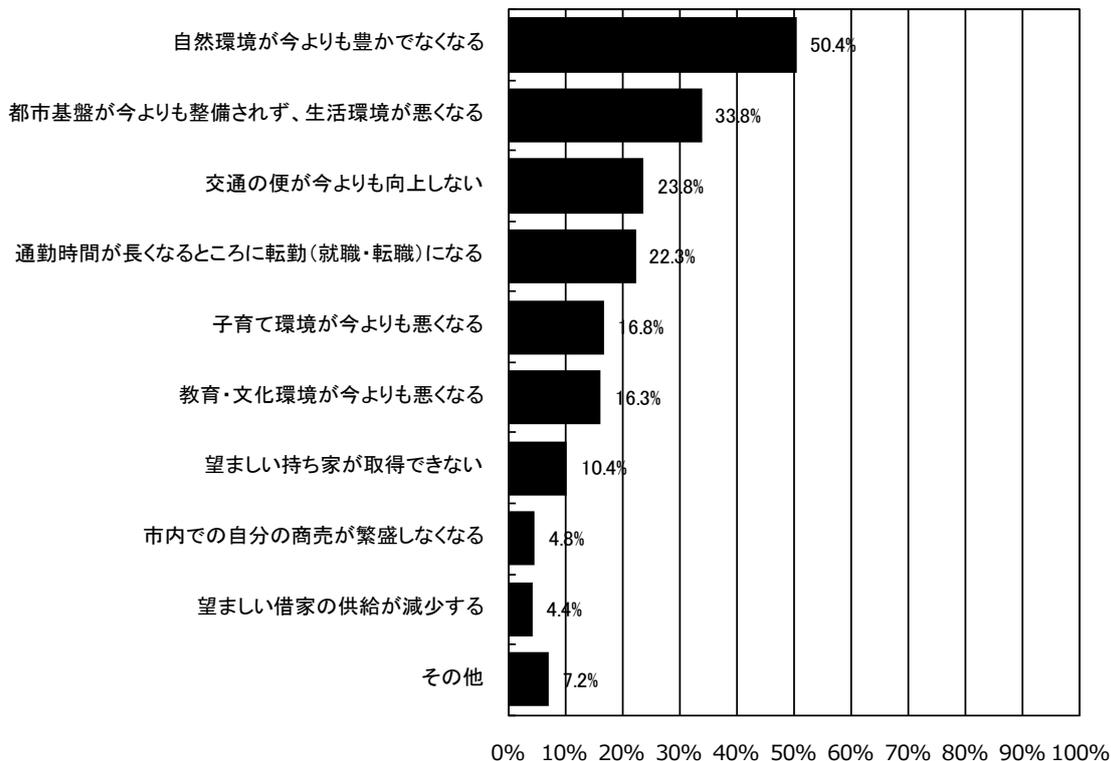
### 横須賀市への定住意向(定住意向のある人が転出をしたくなるきっかけ)

問5-1 問5で①か②を選んだ方に伺います。横須賀市に住み続けたいというあなたの気持ちが変わるとしたら、その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを順に2つまで選んでください。

定住する気持ちが変わるきっかけとして、5割の回答者が「自然環境が今よりも豊かでなくなる」を選択(複数回答)。

- ・「自然環境が今よりも豊かでなくなる」が50.4%と最も多く、これに次いで、「都市基盤が今よりも整備されず、生活環境が悪くなる」(33.8%)、「交通の便が今よりも向上しない」(23.8%)が多く挙げられている(図表Ⅱ-11)。
- ・上位3項目は、平成20年度の調査結果と変化が見られない(図表Ⅱ-12)。
- ・年齢別では特に若年層を中心に、全体とは異なる回答傾向が見られ「通勤時間」や「子育て環境」の割合が高くなっている。
- ・他方、定住意向が最も低い(市外に転居したいの回答割合が最も高い)40-44歳では、「交通利便性」「子育て環境」が全体より10ポイント以上高い値を示した(図表Ⅱ-13)。

(図表Ⅱ-11 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ n=710)



(図表Ⅱ-12 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ 前回調査比較)

	平成 20 年 6 月調査		平成 23 年 3 月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	自然環境が今よりも豊かでなくなる	56.3	自然環境が今よりも豊かでなくなる	50.4
2位	都市基盤が今よりも整備されず、生活環境が悪くなる	38.8	都市基盤が今よりも整備されず、生活環境が悪くなる	33.8
3位	交通の便が今よりも向上しない	22.7	交通の便が今よりも向上しない	23.8

(図表Ⅱ-13 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ 年齢別 n=700)

	件数 (人)	(単位 %)									
		教育・文化環境が今よりも悪くなる	子育て環境が今よりも悪くなる	都市基盤が今よりも整備されず、生活環境が悪くなる	交通の便が今よりも向上しない	自然環境が今よりも豊かなくなる	市内での自分の商売が繁盛しなくなる	通勤時間が長くなる場所に転勤(就職・転職)になる	望ましい持ち家が取得できない	望ましい借家の供給が減少する	その他
全体	710	16.3	16.8	33.8	23.8	50.4	4.8	22.3	10.4	4.4	7.2
15 - 19歳	24	12.5	8.3	33.3	16.7	33.3	12.5	66.7	4.2	4.2	4.2
20 - 24歳	22	4.5	27.3	31.8	22.7	18.2	13.6	40.9	18.2	9.1	4.5
25 - 29歳	28	10.7	35.7	17.9	28.6	25.0	-	46.4	21.4	7.1	3.6
30 - 34歳	41	17.1	34.1	26.8	12.2	22.0	2.4	43.9	19.5	-	7.3
35 - 39歳	71	12.7	33.8	21.1	11.3	47.9	2.8	36.6	14.1	7.0	4.2
40 - 44歳	44	15.9	29.5	13.6	36.4	43.2	6.8	27.3	9.1	4.5	4.5
45 - 49歳	45	17.8	11.1	44.4	22.2	37.8	2.2	35.6	2.2	6.7	15.6
50 - 54歳	60	16.7	11.7	30.0	21.7	43.3	8.3	30.0	11.7	10.0	6.7
55 - 59歳	81	17.3	7.4	43.2	21.0	65.4	3.7	13.6	12.3	3.7	4.9
60 - 64歳	70	15.7	12.9	34.3	30.0	64.3	4.3	11.4	12.9	1.4	4.3
65 - 69歳	75	16.0	13.3	42.7	29.3	66.7	5.3	2.7	1.3	2.7	6.7
70 - 74歳	83	20.5	7.2	43.4	24.1	55.4	4.8	6.0	10.8	2.4	13.3
75歳以上	56	23.2	10.7	37.5	30.4	62.5	1.8	3.6	7.1	1.8	7.1

※年齢別のサンプル数は700件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

#### ii - 4 - (2)

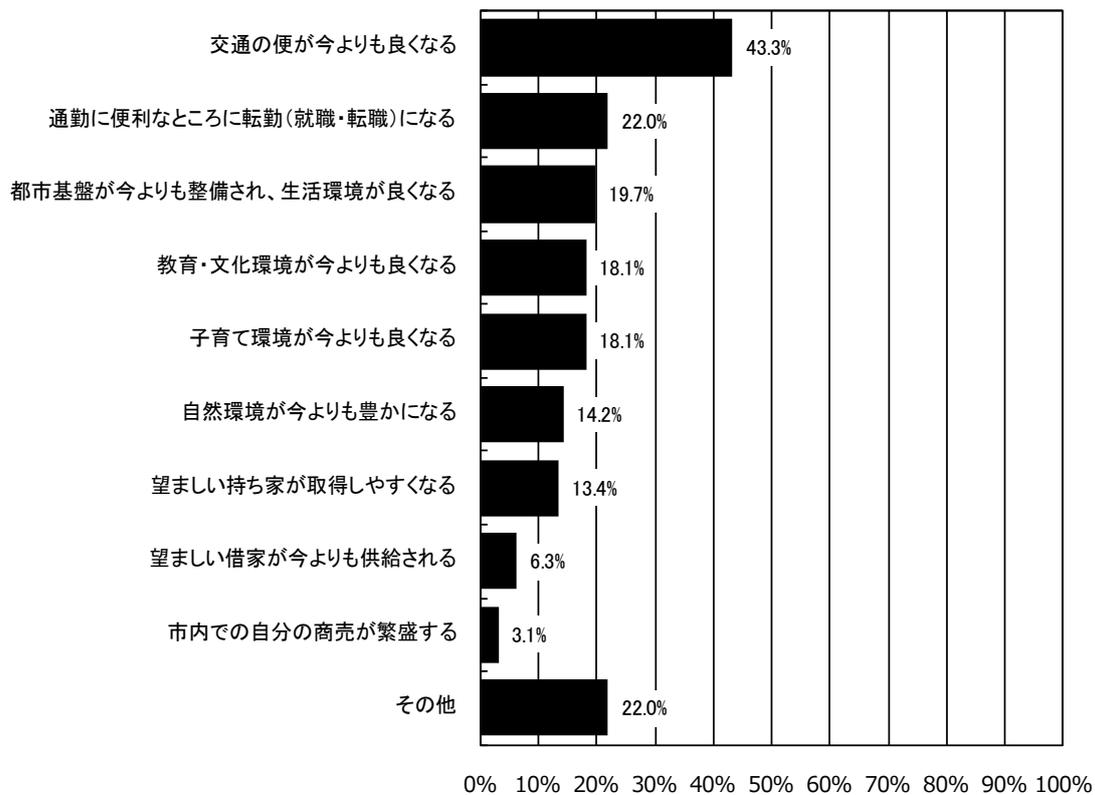
#### 横須賀市への定住意向(転出意向のある人が住み続けたいくなるきっかけ)

問5-2 問5で③を選んだ方に伺います。市外に移りたいというあなたの気持ちが変わるとしたら、その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを順に2つまで選んでください。

・ 転居したいという気持ちの変化する理由として、回答者の4割が「交通の便が今よりも良くなる」を選択(複数回答可)。

- ・ 上位の3項目は、平成20年度の調査結果と変化はみられない(図表Ⅱ-15)。
- ・ しかし、項目別の回答割合には変化が見られ、特に「都市基盤」に関する項目は前回調査と比較して10ポイント以上減少する一方で、「子育て環境」の項目は約6ポイント上昇した(前回調査13.7%)。
- ・ 他方、年齢別では30歳代で特徴がみられ、交通の便より、子育て環境が高い割合を示している(図表Ⅱ-16)。

(図表Ⅱ-14 転出意向がある人の気持ちが変わる理由 n=127)



(図表Ⅱ-15 転出意向がある人の気持ちが変わる理由 前回調査比較)

	平成20年6月調査		平成23年3月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	交通の便が今よりも良くなる	42.6	交通の便が今よりも良くなる	43.3
2位	都市基盤が今よりも整備され、生活環境が良くなる	30.3	通勤に便利なところに転勤(就職・転職)になる	22.0
3位	通勤に便利なところに転勤(就職・転職)になる	23.7	都市基盤が今よりも整備され、生活環境が良くなる	19.7

(図表Ⅱ-16 転出意向がある人の気持ちが変わる理由 年齢別)

	全体(人)	単位(%)									
		教育・文化環境が今よりも良くなる	子育て環境が今よりも良くなる	都市基盤が今よりも整備され、生活環境が良くなる	交通の便が今よりも良くなる	自然環境が今よりも豊かになる	市内での自分の商売が繁盛する	通勤に便利なところに転勤(就職・転職)になる	望ましい持ち家が取得しやすくなる	望ましい借家が今よりも供給される	その他
全体	127	18.1	18.1	19.7	43.3	14.2	3.1	22.0	13.4	6.3	22.0
15~19歳	14	28.6	0.0	14.3	28.6	28.6	0.0	35.7	21.4	7.1	21.4
20歳代	16	6.3	18.8	18.8	56.3	6.3	0.0	43.8	12.5	0.0	12.5
30歳代	18	11.1	44.4	16.7	33.3	0.0	5.6	16.7	11.1	16.7	27.8
40歳代	33	27.3	21.2	21.2	51.5	9.1	0.0	21.2	15.2	3.0	24.2
50歳代	15	13.3	0.0	20.0	46.7	20.0	13.3	13.3	20.0	6.7	26.7
60歳代	18	11.1	16.7	22.2	38.9	16.7	5.6	11.1	5.6	5.6	22.2
70歳代以上	11	27.3	18.2	18.2	45.5	36.4	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1

※年齢別のサンプル数は125件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

### III 地域活動への参加状況

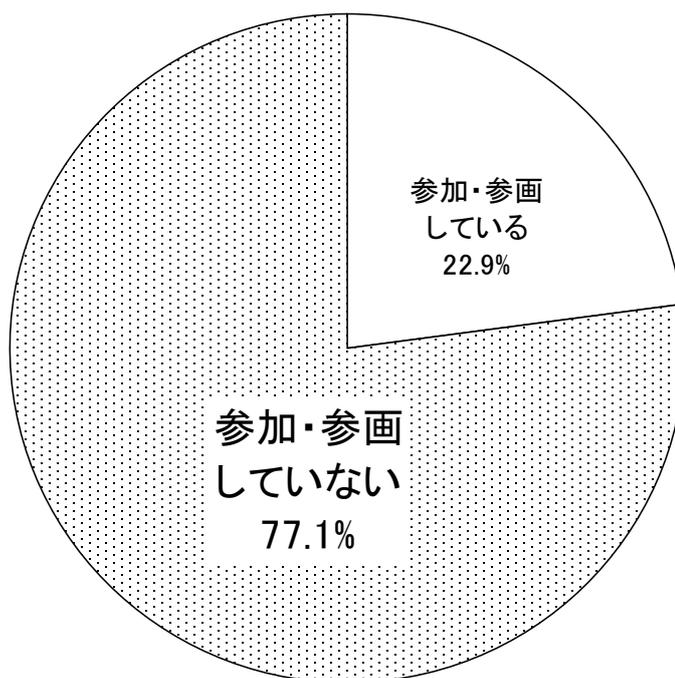
#### III-1 地域活動への参加状況

問6 あなたは、地域のまちづくり活動やボランティア活動、NPO活動、市が呼びかけた市民参加型事業に参加、参画していますか。

地域活動に参加していると回答した人は全体の2割を超える程度。

地域活動に参加していると回答した人は22.9%で、平成20年度の調査結果（26.4%）と比較して参加状況にの傾向に違いは見られない。

（図表Ⅲ-1 市民参加型事業への参加状況 n=903）



【属性別の傾向】

(1) 男女別 (図表Ⅲ-2)

男女別の参加状況は、男性よりも女性の割合が若干高いが、大きな違いはみられない。

(図表Ⅲ-2 市民参加型事業への参加状況 男女別 n=885)

	件数(人)	(単位 %)	
		参加・参画 している	参加・参画 していない
全体	903	22.9	77.1
男性	376	21.8	78.2
女性	509	23.6	76.4

※男女別のサンプル数は885件で全体とは異なる。

(2) 年齢別 (図表Ⅲ-3)

参加・参画していると回答した人の割合が高いのは、40歳代、65歳～74歳で、20～34歳では多くは見られない。

(図表Ⅲ-3 市民参加型事業への参加状況 年齢別 n=886)

	件数(人)	(単位 %)	
		参加・参画 している	参加・参画 していない
全体	903	22.9	77.1
15 - 19歳	38	21.1	78.9
20 - 24歳	31	6.5	93.5
25 - 29歳	35	2.9	97.1
30 - 34歳	51	9.8	90.2
35 - 39歳	83	24.1	75.9
40 - 44歳	72	36.1	63.9
45 - 49歳	60	26.7	73.3
50 - 54歳	68	20.6	79.4
55 - 59歳	95	22.1	77.9
60 - 64歳	88	18.2	81.8
65 - 69歳	98	30.6	69.4
70 - 74歳	101	30.7	69.3
75歳以上	66	18.2	81.8

※年齢別のサンプル数は886件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

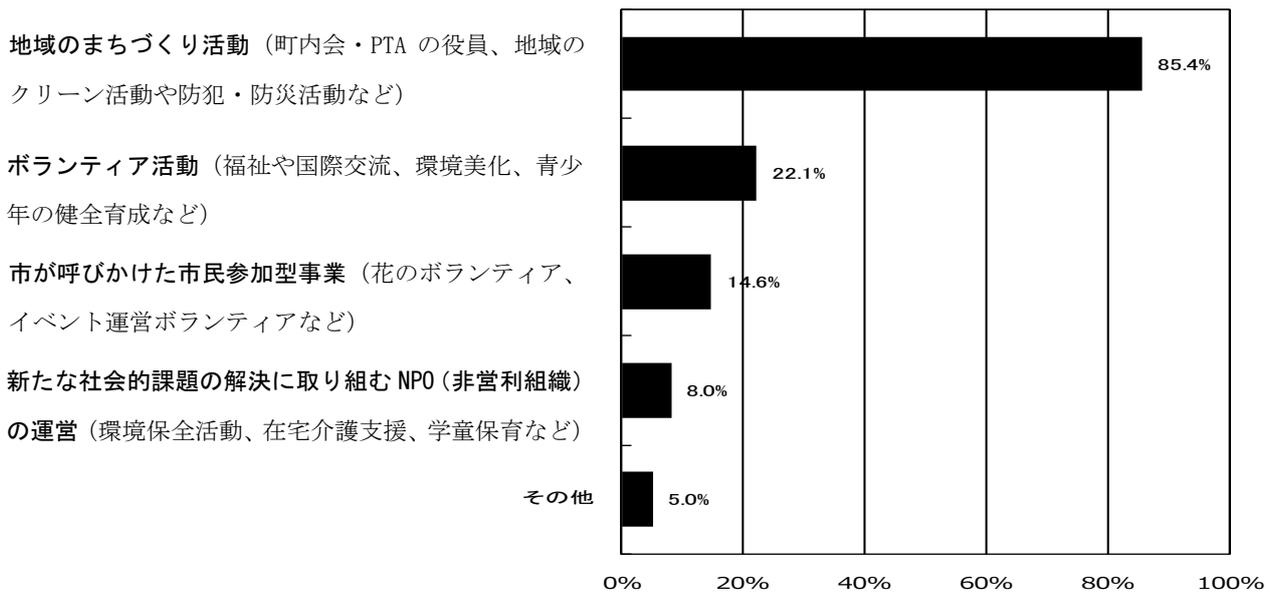
### Ⅲ-1-(1) 地域活動への参加状況 参加した活動の内容

問6-1 問6で①を選んだ方に伺います。あなたが参加、参画しているのはどのような活動ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

地域活動の参加内容として、8割以上の回答者が「町内会、PTA、子ども会の役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など」を選択（複数回答可）。

- ・ 活動内容は、地域のまちづくり活動（町内会、PTA、子ども会の役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など）が85.4%で、突出して選択されている。
- ・ 全体的な回答傾向は、平成20年度の調査結果と傾向に違いは見られない。

(図Ⅲ-4 参加した活動の内容 n=199)



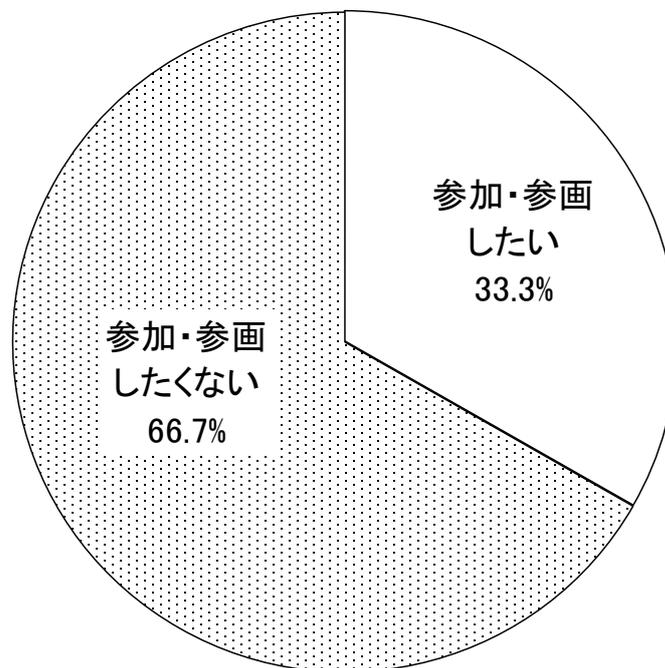
### Ⅲ-1-(2) 地域活動への参加状況 今後の参加意向

問6-2 問6で②を選んだ方に伺います。今後、これらの活動に参加、参画したいと思いますか。

これまで地域活動への参加経験がない回答者のうち、今後、参加・参画したいとした人は3割を超える。

- ・ これまで地域活動への参加経験がない回答者のうち、今後、参加・参画したいと考えている人の割合は33.3%（平成20年度の調査結果34.4%）。
- ・ 年齢別の傾向をみると、参加したいとする人の割合が高い年代は40歳代と60歳代で、なかでも65～70歳が44.4%で最も高い値を示している。一方で、30歳代、50歳代の値が低いことが特徴としてみられる（図表Ⅲ-6）。

（図表Ⅲ-5 これまで参加経験がない回答者の今後の参加意向の有無 n=652）



(図表Ⅲ-6 これまで参加経験がない回答者の今後の参加意向の有無 年齢別 n=642)

	件数(人)	(単位 %)	
		参加・参画 したい	参加・参画 したくない
全体	652	33.3	66.7
15 - 19歳	30	33.3	66.7
20 - 24歳	28	28.6	71.4
25 - 29歳	34	35.3	64.7
30 - 34歳	45	33.3	66.7
35 - 39歳	61	23.0	77.0
40 - 44歳	46	37.0	63.0
45 - 49歳	43	44.2	55.8
50 - 54歳	49	28.6	71.4
55 - 59歳	70	31.4	68.6
60 - 64歳	67	41.8	58.2
65 - 69歳	63	44.4	55.6
70 - 74歳	61	34.4	65.6
75歳以上	45	13.3	86.7

※年齢別のサンプル数は642件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

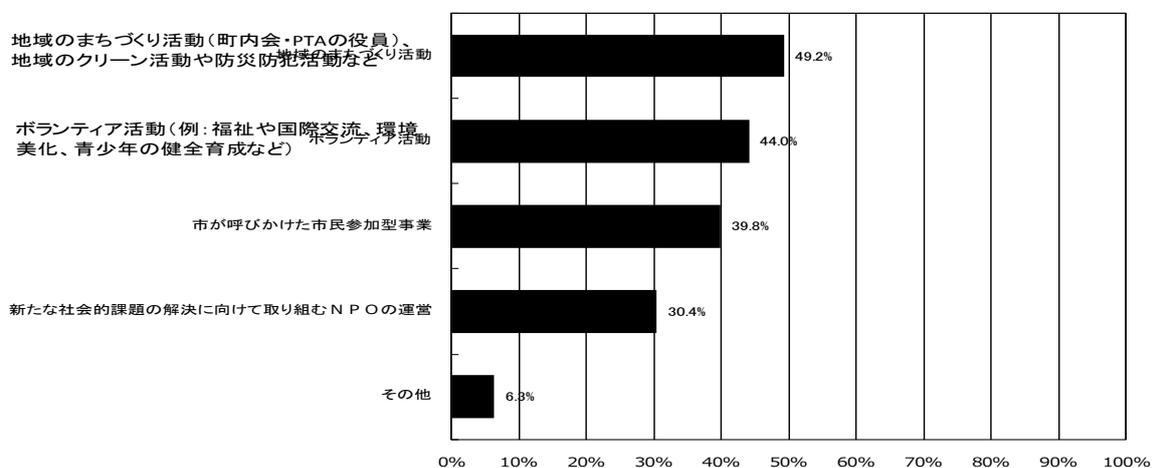
### Ⅲ-1-(3) 地域活動への参加状況

#### 今後の参加意向を持つ人の参加・参画したい活動内容

問6-2で「はい」(今後、参加、参画したい)の場合)それはどのような活動ですか。  
あてはまるものすべてを選んでください。

今後参加したい地域活動は、「地域のまちづくり活動(町内会、PTA、子ども会の役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など)」。

(図Ⅲ-7 これまで参加経験がない回答者が今後参加したい活動 n=217)



### Ⅲ-1-(4) 地域活動への参加状況

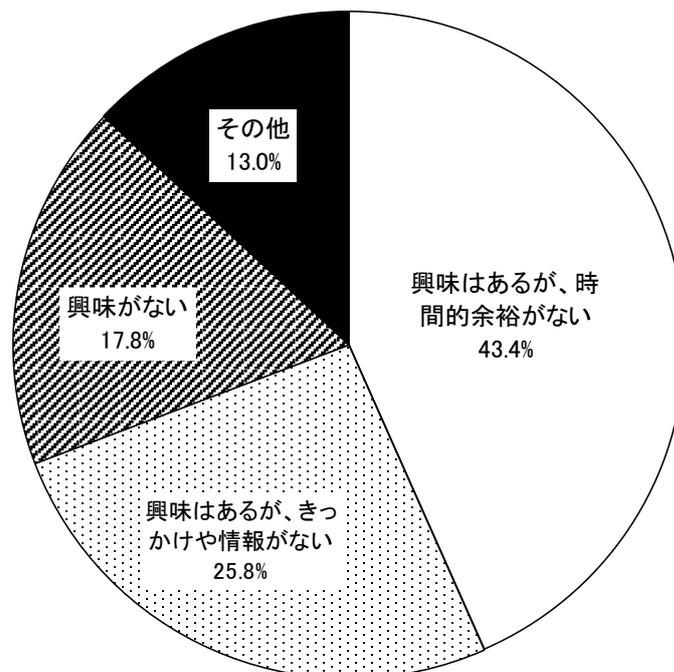
#### 今後の参加意向を持たない人の参加・参画したくない理由

問6-2で「いいえ」(今後も参加、参画したくない)を選択した理由はなぜですか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

7割以上の回答者が「興味はあるが、時間的余裕がない」「興味はあるが、きっかけや情報がない」を選択。地域活動に関心は抱いているものの行動には結びついていない状況が伺える。

- ・「興味はあるが、時間的余裕がない」(43.4%)、「興味はあるが、きっかけや情報がない」(25.8%)を合わせると、約7割を占める(図表Ⅲ-8)。
- ・この傾向は、平成20年度の調査結果(71.0%)と同様。
- ・年齢別では、8割以上を占める年齢層が散見され、その多くは時間的余裕がないことを理由としている(図表Ⅲ-10)。
- ・男女別では大きな差は見られない(図表Ⅲ-9)。

(図表Ⅲ-8 これまで参加経験がない回答者が今後も参加しない理由 n=415)



(図表Ⅲ-9 これまで参加経験がない回答者が今後も参加しない理由 男女別 n=410)

	件数(人)	(単位 %)			
		興味はあるが、 時間的余裕がない	興味はあるが、 きっかけや情報がない	興味がない	その他
全 体	415	43.4	25.8	17.8	13.0
男 性	178	42.7	25.8	20.2	11.2
女 性	232	44.4	25.9	15.1	14.7

※年齢別のサンプル数は410件で全体数(性別不詳を含む)とは異なる。

(図表Ⅲ-10 これまで参加経験がない回答者が今後も参加しない理由 年齢別 n=410)

	件数(人)	(単位 %)				
		興味はあるが、 時間的 余裕がない (A)	興味はある が、きっか けや情報 がない(B)	(A) + (B)	興味がない	その他
全体	415	43.4	25.8	69.2	17.8	13.0
15 - 19歳	20	40.0	25.0	65.0	35.0	-
20 - 24歳	20	65.0	20.0	85.0	15.0	-
25 - 29歳	22	40.9	31.8	72.7	22.7	4.5
30 - 34歳	30	50.0	26.7	76.7	20.0	3.3
35 - 39歳	46	65.2	15.2	80.4	17.4	2.2
40 - 44歳	29	37.9	31.0	68.9	20.7	10.3
45 - 49歳	23	39.1	30.4	69.5	17.4	13.0
50 - 54歳	35	62.9	20.0	82.9	8.6	8.6
55 - 59歳	45	53.3	15.6	68.9	20.0	11.1
60 - 64歳	39	35.9	43.6	79.5	15.4	5.1
65 - 69歳	34	23.5	29.4	52.9	20.6	26.5
70 - 74歳	34	23.5	20.6	44.1	14.7	41.2
75歳以上	33	21.2	33.3	54.5	9.1	36.4

※年齢別のサンプル数は410件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

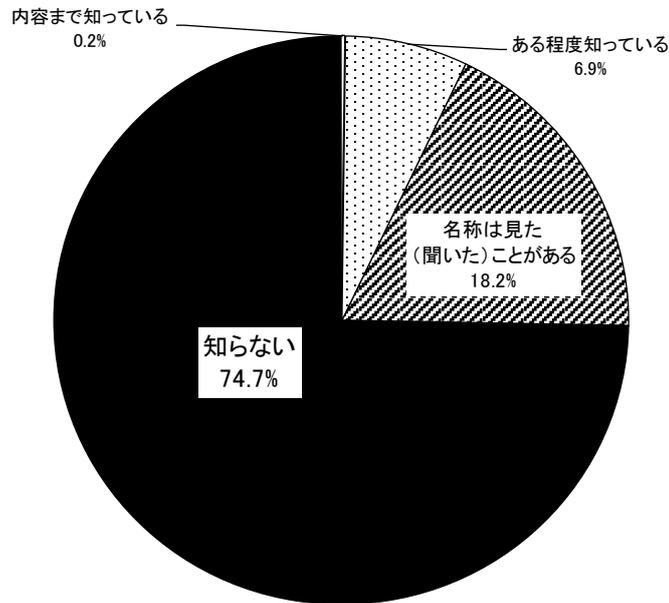
### III-2 自治基本条例の認知度

問7 横須賀市では、市民が主役のまちづくりを進めるための基本的ルールとなる「自治基本条例」の制定を目指し、取り組みを進めています。

あなたは、自治基本条例を知っていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

「内容まで知っている」と回答した人はわずかであったが、「ある程度知っている」「名称は見た（聞いた）ことがある」を合わせると2割を超える。

(図表III-11 自治基本条例の認知度 n=900)



(図表III-12 自治基本条例の認知度 年齢別 n=883)

	件数 (人)	(単位 %)			
		内容まで知っている	ある程度知っている	名称は見た（聞いた）ことがある	知らない
全体	900	0.2	6.9	18.2	74.7
15 - 19歳	38	-	5.3	7.9	86.8
20 - 24歳	31	-	-	16.1	83.9
25 - 29歳	35	-	5.7	8.6	85.7
30 - 34歳	49	-	2.0	12.2	85.7
35 - 39歳	83	-	3.6	14.5	81.9
40 - 44歳	71	-	5.6	11.3	83.1
45 - 49歳	60	1.7	3.3	15.0	80.0
50 - 54歳	68	-	10.3	13.2	76.5
55 - 59歳	96	-	3.1	22.9	74.0
60 - 64歳	87	-	6.9	19.5	73.6
65 - 69歳	98	-	8.2	26.5	65.3
70 - 74歳	99	-	15.2	25.3	59.6
75歳以上	68	1.5	10.3	22.1	66.2

※年齢別のサンプル数は883件で全体数（年齢不詳を含む）とは異なる。

## vi 情報の入手方法、市民相談

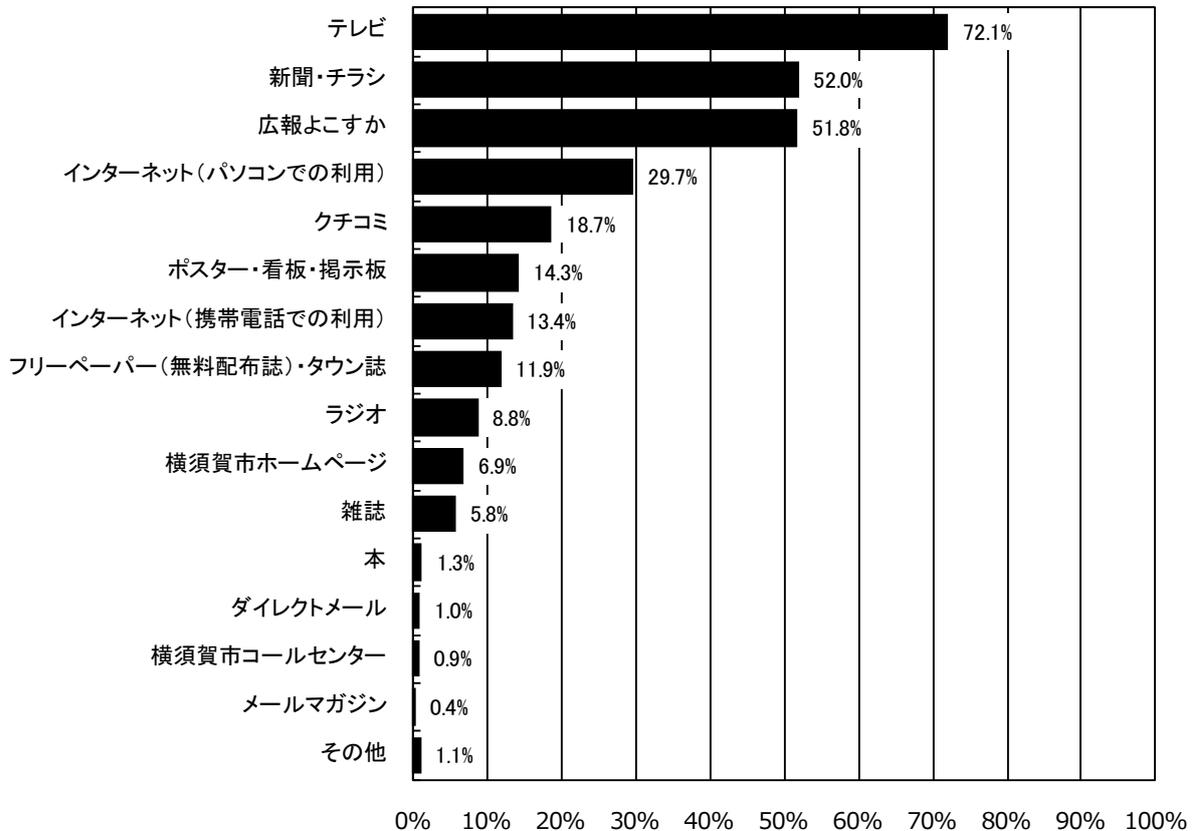
### vi-1 生活に必要な情報の入手先

問8 あなたは、日常生活の中で必要な情報をどのような方法で手に入れていますか。  
次の中から入手方法としてよく活用しているものを順に3つまで選んでください。

- ・回答者の7割が「テレビ」を選択。「新聞・チラシ」「広報よこすか」がこれに次いで活用されている（複数回答）。
- ・男女、年齢別では活用している媒体に大きな差がみられる。

- ・上位3項目は、「テレビ（72.1%）」「新聞・チラシ（52.0%）」「広報よこすか（51.8%）」これらに次いで「インターネット（パソコンでの利用）」（29.7%）が多く挙げられているが、その他の媒体はすべて2割以下となった。

（図表Ⅳ-1 生活に必要な情報の入手先 n=908）



【属性別の傾向】

(1) 男女別 (図表IV-3)

- ・男女間で差がみられる媒体は「テレビ」「広報よこすか」「ポスター・看板・掲示板」「インターネット(パソコンでの利用)」で、「テレビ」「広報よこすか」は女性の回答が男性を上回る。
- ・一方「ポスター・看板・掲示板」「インターネット(パソコンでの利用)」では男性の回答が女性を上回る。
- ・他の媒体では「フリーペーパー」「クチコミ」が女性の割合が若干高く、それ以外は大きな差がみられない。

(2) 年齢別 (図表IV-4)

- ・年齢層による差が顕著にみられるものは「広報よこすか」「インターネット(パソコンでの利用)」「雑誌」「インターネット(携帯電話での利用)」である。
- ・「インターネット(パソコンでの利用)」をみると、50歳未満までの各世代で4割以上が選択している。これと同様に35歳未満の世代では「インターネット(携帯電話での利用)」も2割弱～4割弱が選択している。
- ・「雑誌」では、30歳未満の選択割合が高く、50歳未満までは1割強～2割強となっているが、それ以上の世代との間で大きな差が生じている。
- ・一方、「広報よこすか」については、若年層での回答率が低く、30歳未満では2割以下となっている。

(図表IV-3 生活に必要な情報の入手先 男女別 n=890)

	件数 (人)	(単位%)															
		テレビ	ラジオ	広報よこすか	新聞・チラシ	雑誌	本	ポスター・看板・掲示板	ダイレクトメール	フリーペーパー(無料配布誌)・タウン誌	横須賀市ホームページ	インターネット(パソコンでの利用)	インターネット(携帯電話での利用)	メールマガジン	横須賀市コールセンター	クチコミ	その他
全体	908	72.1	8.8	51.8	52.0	5.8	1.3	14.3	1.0	11.9	6.9	29.7	13.4	0.4	0.9	18.7	1.1
男性	379	67.3	9.8	47.5	53.6	6.9	2.1	18.5	1.3	9.8	9.2	32.5	13.5	0.5	1.1	16.6	1.1
女性	511	76.1	7.4	54.2	51.1	5.3	0.8	11.4	0.6	13.7	5.3	27.6	13.7	0.4	0.8	20.5	1.2

※男女別のサンプル数は890件で全体数(性別不詳を含む)とは異なる。

(図表Ⅳ-4 生活に必要な情報の入手先 年齢別 n=891)

	件数 (人)	(単位 %)															
		テレビ	ラジオ	広報よこす か	新聞・チラ シ	雑誌	本	ポスター・ 看板・掲示 板	ダイレクト メール	フリーペー パー(無料 配布誌)・ タウン誌	横須賀市 ホームページ	インター ネット(パ ソコンでの 利用)	インター ネット(携 帯電話での 利用)	メールマガ ジン	横須賀市 コールセン ター	クチコミ	その他
全体	908	72.1	8.8	51.8	52.0	5.8	1.3	14.3	1.0	11.9	6.9	29.7	13.4	0.4	0.9	18.7	1.1
15 - 19歳	38	84.2	2.6	10.5	26.3	13.2	5.3	5.3	2.6	2.6	2.6	47.4	50.0	-	-	28.9	2.6
20 - 24歳	31	71.0	9.7	19.4	32.3	22.6	6.5	3.2	-	16.1	6.5	38.7	51.6	3.2	-	19.4	-
25 - 29歳	35	77.1	8.6	17.1	34.3	11.4	-	5.7	-	8.6	2.9	45.7	54.3	2.9	-	14.3	-
30 - 34歳	51	64.7	9.8	15.7	37.3	7.8	2.0	5.9	-	13.7	9.8	58.8	37.3	-	2.0	25.5	2.0
35 - 39歳	83	79.5	4.8	32.5	34.9	6.0	1.2	9.6	-	14.5	10.8	55.4	20.5	-	-	14.5	3.6
40 - 44歳	72	72.2	5.6	52.8	38.9	4.2	-	11.1	1.4	9.7	12.5	44.4	12.5	-	-	25.0	-
45 - 49歳	60	88.3	10.0	33.3	53.3	10.0	1.7	3.3	-	8.3	6.7	43.3	20.0	1.7	-	16.7	-
50 - 54歳	68	70.6	5.9	45.6	61.8	1.5	1.5	14.7	1.5	19.1	8.8	36.8	4.4	-	-	20.6	1.5
55 - 59歳	96	77.1	10.4	56.3	53.1	6.3	1.0	21.9	-	10.4	11.5	25.0	3.1	1.0	-	17.7	2.1
60 - 64歳	88	72.7	11.4	61.4	63.6	4.5	2.3	17.0	3.4	15.9	3.4	19.3	-	-	1.1	14.8	1.1
65 - 69歳	98	69.4	10.2	75.5	60.2	5.1	1.0	22.4	2.0	9.2	2.0	7.1	-	-	1.0	22.4	-
70 - 74歳	103	61.2	9.7	78.6	65.0	1.9	-	20.4	-	11.7	5.8	9.7	1.0	-	4.9	14.6	1.0
75歳以上	68	61.8	4.4	83.8	73.5	1.5	-	20.6	-	13.2	4.4	1.5	2.9	-	-	16.2	-

※年齢別のサンプル数は 891 件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

## vi-2 市民相談

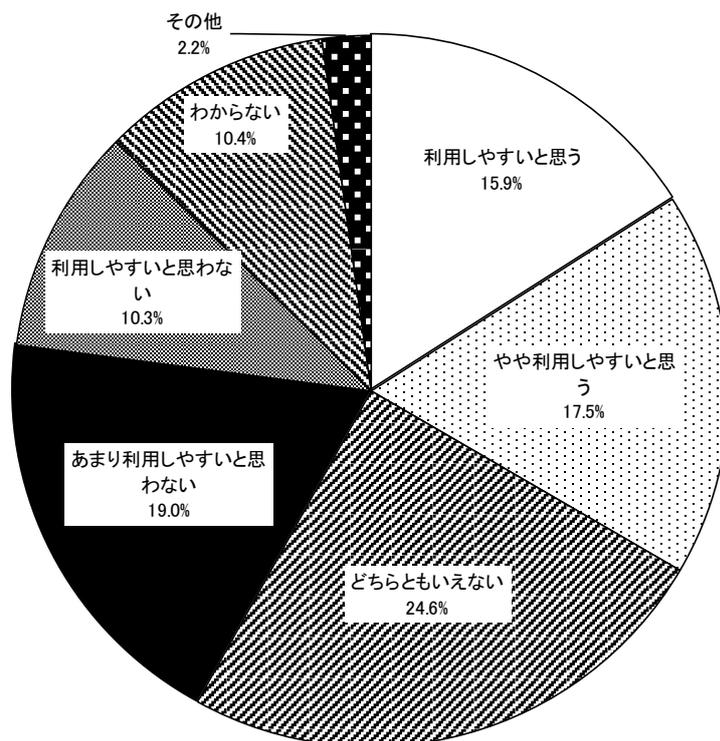
問9 市役所では、市政に対する意見や要望のほか、相続や離婚などの家庭問題、近隣トラブル、多重債務問題など日常生活で生じるさまざまな問題について、市民相談室を設けて相談に応じています。

あなたは、日常生活の困りごとなどを相談する場所として、市役所は利用しやすい場所だと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

「どちらともいえない」を選択した人の割合が24.6%で最も高い。

- ・「利用しやすいと思う（15.9%）」「やや利用しやすいと思う（17.5%）」の肯定的な回答を合わせた割合は33.4%。「利用しやすいと思わない」「あまり利用しやすいと思わない」の否定的な回答を合わせた割合は29.3%で、肯定的な回答が4ポイント上回った。

(図表IV - 5 日常生活の困りごとなどを相談する場所としての市役所の利用のしやすさ n=901)



## V 基地について

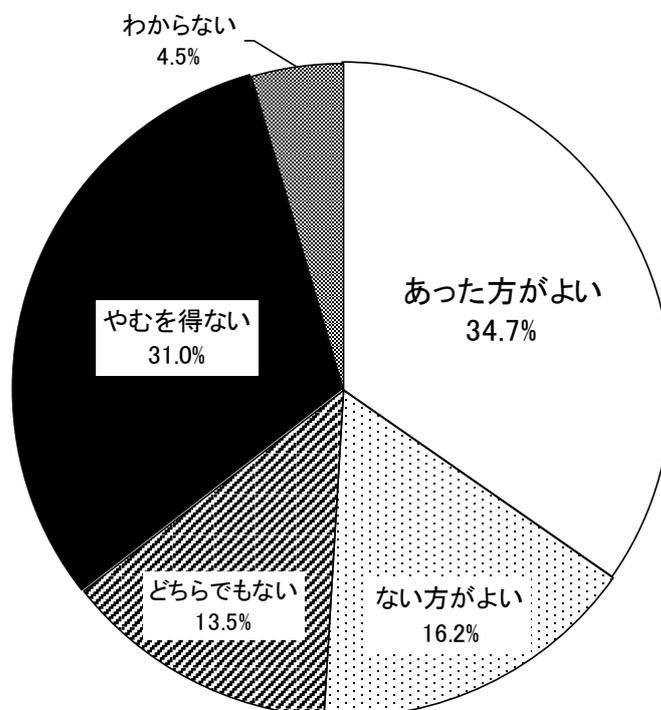
### V-1 米軍基地に対する考え

問 10 横須賀市内にある米軍基地について、どのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

米軍基地について「あった方がよい」と回答した人は3割を超え「ない方がよい」と回答した人を約2割上回った。

- ・「あった方がよい (34.7%)」の、次に「やむを得ない (31.0%)」が選択されており、現状に対して望ましくはないが、仕方がないと考えている回答者も多く存在する (図表V-1)。
- ・「あった方がよい」とする回答者の割合は、平成20年度の調査と比較して17ポイント上回った。一方「やむを得ない」「ない方がよい」と回答した人の割合がそれぞれ10ポイント減少した (図表V-2)。

(図表V-1 米軍基地に対する考え n=902)



(図表V-2 米軍基地に対する考え 前回調査比較)

	平成20年6月調査		平成23年3月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	やむを得ない	44.1	あった方がよい	34.7
2位	ない方がよい	26.3	やむを得ない	31.0
3位	あった方がよい	17.6	ない方がよい	16.2

【属性別の傾向】

(1) 男女別 (図表V-3)

- ・男性では、「あった方がよい」「ない方がよい」が共に女性より多くなっているが、女性では「どちらでもない」「わからない」が男性より多くなっている。
- ・「やむを得ない」は、男女ほぼ同じである。

(2) 年齢別 (図表V-4)

- ・全体と比べて「あった方がよい」の肯定的な回答と「ない方がよい」の否定的な回答割合を差し引くと、20歳代、55歳以上で高い値を示す一方で、40歳～54歳の年齢層では、一桁台の低い値を示している。
- ・他方、25歳-29歳では「どちらでもない」、45-49歳では「やむを得ない」、15-19歳では「わからない」の回答割合が高く、年齢によって回答傾向に大きなばらつきがみられる。

(図表V-3 米軍基地に対する考え 男女別 n=884)

	件数 (人)	(単位 %)				
		あった方がよい	ない方がよい	どちらでもない	やむを得ない	わからない
全体	902	34.7	16.2	13.5	31.0	4.5
男性	376	40.4	18.4	10.6	29.3	1.3
女性	508	30.7	14.8	15.4	32.1	7.1

※男女別のサンプル数は884件で全体数(性別不詳を含む)とは異なる。

(図表V-4 米軍基地に対する考え 年齢別 n=885)

	件数 (人)	(単位 %)					
		あった方がよい (a)	ない方がよい (b)	(a)-(b)	どちらでもない	やむを得ない	わからない
全体	902	34.7	16.2	18.5	13.5	31.0	4.5
15 - 19歳	38	28.9	15.8	13.1	13.2	26.3	15.8
20 - 24歳	31	38.7	3.2	35.5	22.6	29.0	6.5
25 - 29歳	35	37.1	11.4	25.7	28.6	20.0	2.9
30 - 34歳	50	32.0	16.0	16.0	20.0	28.0	4.0
35 - 39歳	83	37.3	14.5	22.8	13.3	32.5	2.4
40 - 44歳	72	23.6	20.8	2.8	13.9	34.7	6.9
45 - 49歳	60	25.0	15.0	10.0	15.0	41.7	3.3
50 - 54歳	68	29.4	25.0	4.4	14.7	22.1	8.8
55 - 59歳	95	37.9	14.7	23.2	9.5	31.6	6.3
60 - 64歳	85	37.6	16.5	21.1	10.6	34.1	1.2
65 - 69歳	97	37.1	16.5	20.6	8.2	35.1	3.1
70 - 74歳	102	38.2	20.6	17.6	12.7	24.5	3.9
75歳以上	69	44.9	11.6	33.3	8.7	33.3	1.4

※年齢別のサンプル数は885件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

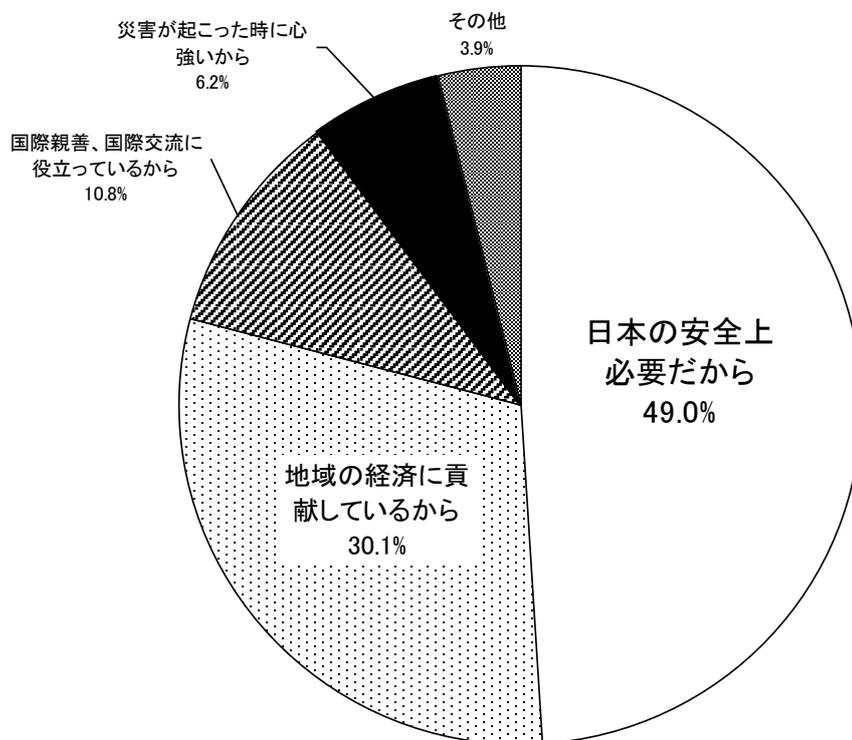
### V-1-(1) 米軍基地があった方がよい理由

問10-1 問10で①を選んだ方に伺います。①を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

あった方がよいとする回答者のうち5割弱が、日本の安全上必要であることを理由として挙げている。

- ・ 問10で「あった方がよい」を選んだ理由としては「日本の安全上必要だから」が最も多く選択され、49.0%を占める。
- ・ これに次いで、「地域の経済に貢献しているから」(30.1%)が多く、以下、「国際親善、国際交流に役立っているから」(10.8%)が続く。
- ・ 上位3項目の回答傾向は、平成20年の調査と大きな違いはみられない(図表V-6)。

(図表V-5 米軍基地があった方がよいとする理由 n=306)



(図表V-6 米軍基地があった方がよいとする理由 前回調査比較)

	平成 20 年 6 月調査		平成 23 年 3 月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	日本の安全上必要だから	48.2	日本の安全上必要だから	49.0
2 位	地域の経済に貢献しているから	29.8	地域の経済に貢献しているから	30.1
3 位	国際親善・国際交流に役立っているから	10.6	国際親善・国際交流に役立っているから	10.8

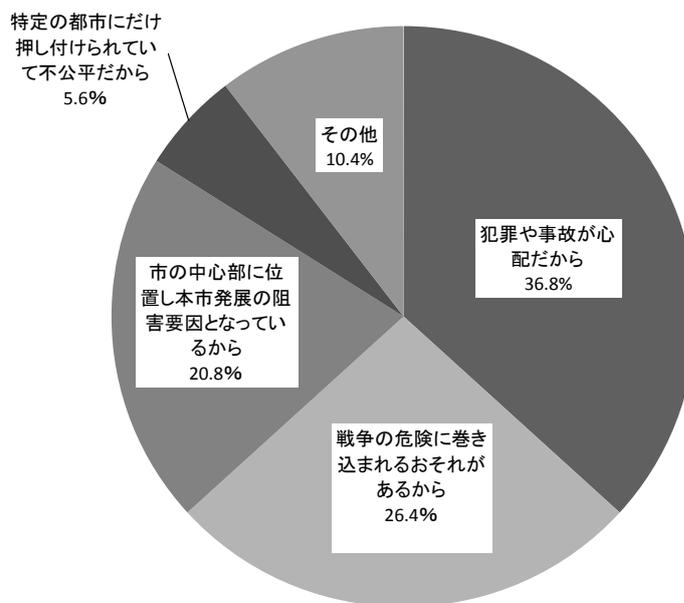
## V-1-(2) 米軍基地がない方がよい理由

問 10-2 問 10 で②を選んだ方に伺います。②を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

ない方がよいとする回答者のうち4割弱が、犯罪や事故が心配であることを理由として挙げている。

- ・「犯罪や事故が心配だから」が最も多く選択され、36.8%を占めている。
- ・これに次いで、「戦争の危険に巻き込まれるおそれがあるから」(26.4%)、「市の中心部に位置し、本市発展の阻害要因となっているから」(20.8%)が多く挙げられている。

(図表 V-7 米軍基地がない方がよいとする理由 n=144)



(図表 V-8 米軍基地がない方がよいとする理由 前回調査比較)

	平成 20 年 6 月調査		平成 23 年 3 月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	犯罪や事故が心配だから	45.2	犯罪や事故が心配だから	36.8
2 位	戦争の危険に巻き込まれる恐れがあるから	20.7	戦争の危険に巻き込まれる恐れがあるから	26.4
3 位	市の中心部に位置し、本市発展の阻害要因となっているから	17.6	市の中心部に位置し、本市発展の阻害要因となっているから	20.8

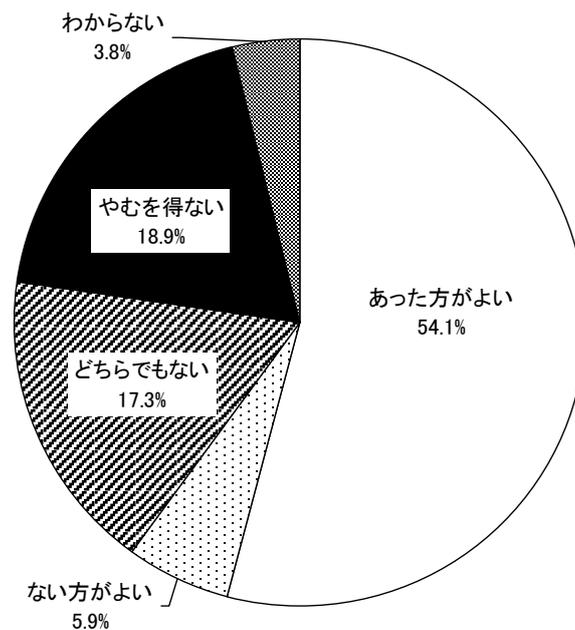
## V-2 自衛隊基地に対する考え

問 11 横須賀市内にある自衛隊基地について、どのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

5割以上の回答者が「あった方がよい」を選択。「ない方がよい」を大きく上回った。

- ・「ない方がよい」とする回答は5.9%。
- ・「あった方がよい」と回答した人の割合は、平成20年度の調査と比較して約15ポイント上回った。一方「やむを得ない」と回答した人の割合が20ポイント減少した（図表V-10）。これについては、調査期間中に発生した東日本大震災における自衛隊の活動が大きく影響していると考えられる。

（図表V-9 自衛隊基地に対する考え n=885）



（図表V-10 自衛隊基地に対する考え 前回調査比較）

	平成20年6月調査		平成23年3月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	やむを得ない	39.0	あった方がよい	54.1
2位	あった方がよい	38.5	やむを得ない	18.9
3位	どちらでもない	9.7	どちらでもない	17.3

(図表V-11 自衛隊基地に対する考え 年齢別 n=869)

	件数 (人)	(単位 %)				
		あった方がよい	ない方がよい	どちらでもない	やむを得ない	わからない
全体	885	54.1	5.9	17.3	18.9	3.8
15 - 19歳	38	65.8	5.3	10.5	5.3	13.2
20 - 24歳	31	45.2	3.2	35.5	12.9	3.2
25 - 29歳	35	54.3	-	34.3	11.4	-
30 - 34歳	50	40.0	8.0	26.0	22.0	4.0
35 - 39歳	81	51.9	6.2	22.2	16.0	3.7
40 - 44歳	72	40.3	6.9	26.4	20.8	5.6
45 - 49歳	59	40.7	6.8	22.0	28.8	1.7
50 - 54歳	68	52.9	7.4	17.6	16.2	5.9
55 - 59歳	92	54.3	6.5	16.3	18.5	4.3
60 - 64歳	86	60.5	4.7	10.5	20.9	3.5
65 - 69歳	94	62.8	4.3	6.4	24.5	2.1
70 - 74歳	96	59.4	8.3	11.5	17.7	3.1
75歳以上	67	65.7	6.0	10.4	14.9	3.0

※年齢別のサンプル数は869件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

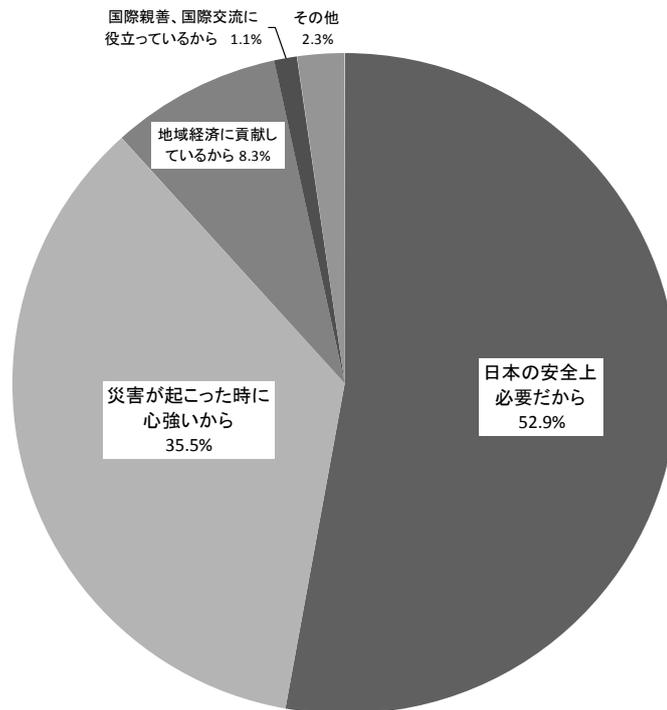
## V-2-(1) 自衛隊基地があった方がよい理由

問11-1 問11で①を選んだ方に伺います。①を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

「あった方がよい」を選択した回答者の5割以上が、日本の安全上必要であることを理由として挙げている。

- ・自衛隊基地が「あった方がよい」を選んだ理由として「日本の安全上必要だから」が最も多く選択され、52.9%を占めている。また、「災害が起こった時に心強いから」も35.5%と比較的多くなっている(図表V-12)。
- ・全体的な回答傾向は、前回調査と大きな違いはないが、「災害が起こった時に心強いから」が3ポイント程度高くなっており、調査実施期間中に東日本大震災が発生したことが少なからず回答に影響していると考えられる(図表V-13)。

(図表 V-12 自衛隊基地があった方がよいとする理由 n=471)



(図表 V-13 自衛隊基地があった方がよいとする理由 前回調査比較)

	平成 20 年 6 月調査		平成 23 年 3 月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1 位	日本の安全上必要だから	56.3	日本の安全上必要だから	52.9
2 位	災害が起こったときに心強いから	32.7	災害が起こったときに心強いから	35.5
3 位	地域の経済に貢献しているから	7.7	地域の経済に貢献しているから	8.3

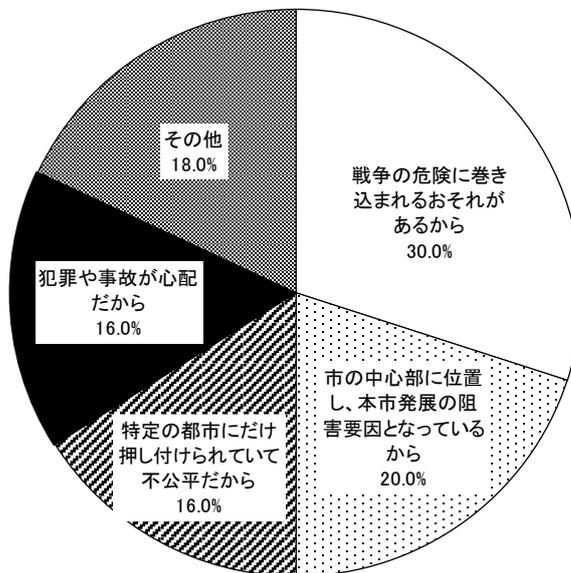
## V-2-(2) 自衛隊基地がない方がよい理由

問11で②を選んだ方に伺います。②を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

「ない方がよい」選択した回答者の3割が「戦争の危険に巻き込まれるおそれがあること」を、2割が「本市発展の阻害要因」となることを理由として挙げている。

- ・前回調査と比較して上位の回答項目に大きな変化ないが、「特定の都市だけに押し付けられていて不公平だから」が5ポイント程度高くなっている（図表V-15）。

（図表V-14 自衛隊基地がない方がよいとする理由 n=50）



（図表 V-15 自衛隊基地がない方がよいとする理由 前回調査比較）

	平成20年6月調査		平成23年3月調査	
	選択肢名	割合 (%)	選択肢名	割合 (%)
1位	戦争の危険に巻き込まれる恐れがあるから	31.1	戦争の危険に巻き込まれる恐れがあるから	30.0
2位	市の中心部に位置し、本市発展の阻害要因となっているから	24.3	市の中心部に位置し、本市発展の阻害要因となっているから	20.0
3位	犯罪や事故が心配だから	13.6	犯罪や事故が心配だから	16.0
			特定の都市だけに押し付けられていて不公平だから	16.0
4位	特定の都市だけに押し付けられていて不公平だから	11.3	その他	18.0

## VI 政策の優先度や市役所サービスへの満足度

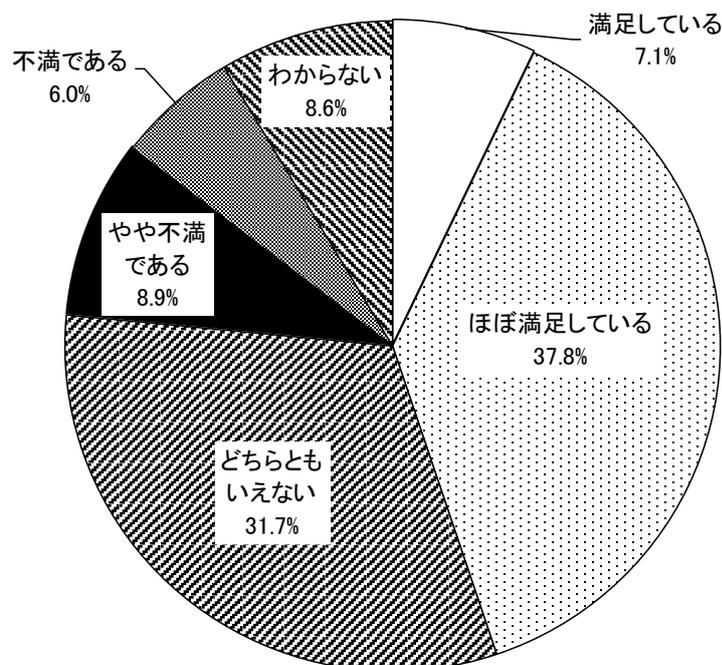
### VI-1 日々の暮らしにかかわる市役所サービスへの満足度

問12 日々の暮らしにかかわる市役所のサービスに対する、あなたの「満足度」について、次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

「ほぼ満足している」と回答した人の割合が4割弱で最も高い。

- ・「満足 (7.1%)」「ほぼ満足 (37.8%)」と肯定的な回答を合わせた人の割合は4割を超え、「不満である (6.0%)」「やや不満である (8.9%)」と否定的な回答をした人の割合を大幅に上回った (図表VI-1)。
- ・他方、「どちらともいえない」が31.7%で、回答割合では2番目に高く、今後この回答傾向の改善が重要になる。
- ・男女別では、男性の満足度割合が約7ポイント高い (図表VI-2)。
- ・年齢別では、29歳以下の年齢層で「どちらともいえない」「わからない」の回答割合が高い傾向がみられる。これについて、当該年齢層の市役所サービスへの接触機会が少ないことが考えられる。

(図表VI-1 市役所サービスへの満足度 n=903)



(図表VI-2 市役所サービスへの満足度 男女別 n=886)

	件数 (人)	(単位 %)							
		満足している (A)	ほぼ満足している (B)	(A) + (B)	どちらともいえない	やや不満である (C)	不満である (D)	(C) + (D)	わからない
全体	903	7.1	37.8	44.9	31.7	8.9	6.0	14.9	8.6
男性	378	7.7	41.5	49.2	29.6	8.7	5.8	14.5	6.6
女性	508	6.9	34.8	41.7	33.3	8.7	6.1	14.8	10.2

※男女別のサンプル数は886件で全体数(性別不詳を含む)とは異なる。

(図表VI-3 市役所サービスへの満足度 年齢別 n=887)

	件数 (人)	(単位 %)							
		満足している (A)	ほぼ満足している (B)	(A)+(B)	どちらともいえない	やや不満である (C)	不満である (D)	(c)+(D)	わからない
全体	903	7.1	37.8	44.9	31.7	8.9	6.0	14.9	8.6
15 - 19歳	38	-	21.1	21.1	34.2	5.3	2.6	7.9	36.8
20 - 24歳	31	16.1	9.7	25.8	41.9	9.7	3.2	12.9	19.4
25 - 29歳	35	-	25.7	25.7	45.7	5.7	2.9	8.6	20.0
30 - 34歳	51	2.0	31.4	33.4	31.4	13.7	7.8	21.5	13.7
35 - 39歳	83	7.2	30.1	37.3	36.1	9.6	9.6	19.2	7.2
40 - 44歳	72	6.9	27.8	34.7	40.3	13.9	2.8	16.7	8.3
45 - 49歳	60	1.7	28.3	30.0	33.3	16.7	13.3	30.0	6.7
50 - 54歳	67	4.5	38.8	43.3	29.9	9.0	9.0	18.0	9.0
55 - 59歳	96	5.2	39.6	44.8	29.2	10.4	9.4	19.8	6.3
60 - 64歳	88	6.8	38.6	45.4	36.4	9.1	2.3	11.4	6.8
65 - 69歳	98	8.2	49.0	57.2	31.6	3.1	6.1	9.2	2.0
70 - 74歳	102	13.7	53.9	67.6	20.6	6.9	2.9	9.8	2.0
75歳以上	66	15.2	56.1	71.3	18.2	3.0	3.0	6.0	4.5

※年齢別のサンプル数は887件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

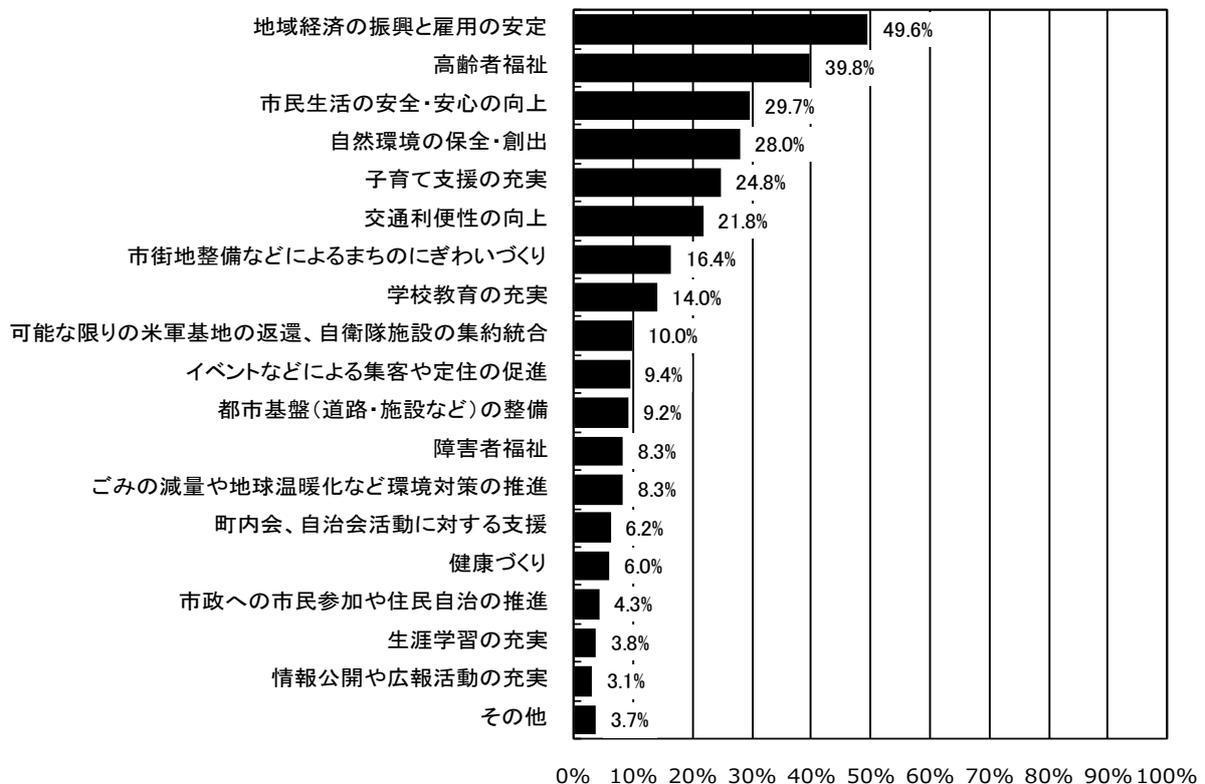
## VI-2 政策の優先度

問 13 10年後、20年後の将来、横須賀市が元気で夢のもてる都市であるためには、財源に限りがある中で、今後どのような政策を重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを順に3つ選んでください。

優先すべき政策として、半数の回答者が「地域経済の振興と雇用の安定」を選択。

- ・ 図表VI-4は優先すべき政策として順位に関係なく回答した人の割合を示したもの。
- ・ 「地域経済の振興と雇用の安定」が最も高く、半数近くの人を選択している。次いで「高齢者福祉」(39.8%)が高い割合を示した。
- ・ これらに続き、「市民生活の安全・安心の向上」「自然環境の保全・創出」「子育て支援」などが多く挙げられている。

(図表VI-4 政策の優先度 n=901)



## 【属性別の傾向】

### (1) 男女別 (図表VI-5)

- ・男女で回答傾向が異なる政策は4つで、それぞれ5ポイント以上の違いがみられる。
- ・特に「子育て支援」では、女性の回答が男性を約9ポイント上回っている。

(図表VI-5 政策の優先度 男女別 n=885)

	件数 (人)	(単位 %)			
		自然環境の保 全・創出	子育て支援の 充実	市民生活の安 全・安心の向 上	都市基盤 (道路・施設な ど)の整備
全 体	901	28.0	24.8	29.7	9.2
男 性	376	32.7	19.9	25.5	12.5
女 性	509	24.4	28.7	32.8	6.7

※男女別のサンプル数は885件で全体数(性別不詳を含む)とは異なる。

### (2) 年齢別 (図表VI-6)

- ・優先すべき政策として最も回答割合の高かった「地域経済の振興と雇用の安定」については、特に45歳以上60歳までの世代で回答割合が高い傾向がみられる。
- ・20歳代を中心とした若年層では、「イベントなどによる集客や定住の促進」「市街地整備などによるまちのにぎわいづくり」に関する政策への回答割合が全体と比較して高い傾向がみられる。
- ・「子育て支援」についても幼児の親の世代にあたる20～30歳代の回答割合が高く、特に30歳代の前半で高い割合を示している。
- ・「学校教育の充実」については教育を受けている子どもの親の世代にあたる30代後半から40代前半で優先すべき政策として高い回答割合となっている。
- ・一方、高齢層ではにぎわい、子育てなどに関する割合は総じて低く、「高齢者福祉」への回答割合が高くなっている。

(図表VI-6 政策の優先度 年齢別 n=886)

	件数 (人)	(単位 %)																		
		イベントなどによる集客や定住の促進	自然環境の保全・創出	交通利便性の向上	地域経済の振興と雇用の安定	市街地整備などによるまちのぎわいづくり	可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設集約統合	子育て支援の充実	学校教育の充実	生涯学習の充実	障害者福祉	高齢者福祉	健康づくり	町内会、自治会活動に対する支援	市民生活の安全・安心の向上	都市基盤(道路・施設など)の整備	ごみの減量や地球温暖化など環境対策の推進	情報公開や広報活動の充実	市民参加や住民自治の推進	その他
全体	901	9.4	28.0	21.8	49.6	16.4	10.0	24.8	14.0	3.8	8.3	39.8	6.0	6.2	29.7	9.2	8.3	3.1	4.3	3.7
15-19歳	38	21.1	13.2	26.3	44.7	23.7	5.3	23.7	18.4	-	5.3	26.3	7.9	13.2	26.3	10.5	13.2	5.3	5.3	5.3
20-24歳	31	19.4	9.7	35.5	35.5	19.4	-	51.6	12.9	-	12.9	29.0	3.2	6.5	32.3	12.9	9.7	3.2	3.2	3.2
25-29歳	35	22.9	11.4	28.6	57.1	25.7	-	48.6	17.1	-	-	20.0	2.9	2.9	20.0	22.9	2.9	5.7	2.9	2.9
30-34歳	51	7.8	31.4	13.7	41.2	17.6	3.9	66.7	17.6	3.9	3.9	25.5	5.9	2.0	25.5	17.6	5.9	-	3.9	5.9
35-39歳	83	7.2	30.1	22.9	44.6	13.3	9.6	34.9	25.3	4.8	7.2	25.3	7.2	6.0	25.3	10.8	10.8	2.4	2.4	7.2
40-44歳	72	13.9	23.6	31.9	41.7	25.0	6.9	26.4	23.6	4.2	5.6	25.0	1.4	4.2	34.7	6.9	8.3	2.8	2.8	4.2
45-49歳	60	13.3	16.7	26.7	56.7	15.0	3.3	21.7	13.3	3.3	6.7	26.7	11.7	1.7	41.7	13.3	10.0	5.0	5.0	3.3
50-54歳	68	7.4	26.5	20.6	64.7	5.9	13.2	19.1	16.2	7.4	8.8	41.2	5.9	5.9	30.9	4.4	10.3	2.9	1.5	2.9
55-59歳	95	5.3	31.6	23.2	56.8	16.8	7.4	21.1	3.2	2.1	12.6	49.5	6.3	6.3	33.7	10.5	4.2	3.2	2.1	3.2
60-64歳	88	8.0	38.6	18.2	55.7	15.9	10.2	18.2	6.8	4.5	5.7	56.8	3.4	4.5	20.5	5.7	9.1	2.3	8.0	2.3
65-69歳	97	6.2	30.9	21.6	50.5	14.4	15.5	12.4	13.4	7.2	7.2	42.3	5.2	7.2	33.0	6.2	9.3	2.1	6.2	5.2
70-74歳	101	5.9	33.7	14.9	44.6	16.8	15.8	13.9	9.9	2.0	15.8	53.5	7.9	7.9	29.7	6.9	8.9	4.0	6.9	-
75歳以上	67	7.5	29.9	13.4	44.8	13.4	20.9	13.4	11.9	4.5	7.5	56.7	4.5	13.4	29.9	6.0	6.0	4.5	4.5	3.0

※年齢別のサンプル数は886件で全体数(年齢不詳を含む)とは異なる。

(3) 居住地域別 (図表VI-7)

- ・優先すべき政策として最も回答割合が高い値を示した「地域経済の振興と雇用の安定」について、地域別でみると田浦地域が56.1%と最も高い割合となった。一方、追浜地域の回答割合が、36.2%で最も低く、田浦地域と比較して20ポイント近くの差が生じており、市北部の地域間で回答傾向に大きな違いがみられる。
- ・他方、西地域で最も優先すべきとされている政策は、「交通利便性の向上」で全体の2倍の割合を示している。
- ・北下浦地域では「市民生活の安全・安心の向上」が、40.7%と他地域と比較して高い割合を示した。この理由については、当該地区は活断層などの存在が知られていることから、回答に東日本大震災の発生が少なからず影響しているものと考えられる。
- ・追浜地域、浦賀地域では「自然環境の保全・創出」が他に比べて高い割合になっている。特に、追浜地域については、現在大規模なマンション開発が進められており、これが少なからず回答に影響していると考えられる。
- ・その他、「子育て」「教育」に関する政策など、地域によって回答傾向が大きく異なるものが散見される。

(図表VI-7 政策の優先度 地域別 n=884)

	件数 (人)	単位 (%)																		
		イベント などによる 集客や 定住の促 進	自然環境 の保全・ 創出	交通利便 性の向上	地域経済 の振興と 雇用の安 定	市街地整 備などに よるまち づくり	可能な限 りの米軍 基地の返 還、自衛 隊施設の 集約統合	子育て支 援の充実	学校教育 の充実	生涯学習 の充実	障害者福 祉	高齢者福 祉	健康づく り	町内会、 自治会活 動に対す る支援	市民生活 の安全・ 安心の向 上	都市基盤 (道路・ 施設な ど)の整 備	ごみの減 量や地球 温暖化な ど環境対 策の推進	情報公開 や広報活 動の充実	市政への 市民参加 や住民自 治の推進	その他
全体	901	9.4	28.0	21.8	49.6	16.4	10.0	24.8	14.0	3.8	8.3	39.8	6.0	6.2	29.7	9.2	8.3	3.1	4.3	3.7
本庁地域	124	8.1	21.8	25.8	54.0	21.0	10.5	27.4	13.7	4.0	8.1	37.1	3.2	7.3	29.8	8.1	6.5	5.6	4.0	4.0
追浜地域	69	17.4	34.8	17.4	36.2	20.3	7.2	29.0	10.1	2.9	7.2	44.9	8.7	8.7	27.5	8.7	4.3	4.3	4.3	-
田浦地域	41	7.3	29.3	12.2	56.1	19.5	17.1	19.5	4.9	4.9	4.9	29.3	7.3	12.2	34.1	17.1	4.9	4.9	7.3	7.3
逸見地域	23	13.0	30.4	17.4	43.5	30.4	13.0	13.0	13.0	4.3	8.7	39.1	17.4	-	34.8	8.7	4.3	-	4.3	4.3
衣笠地域	117	9.4	20.5	18.8	53.0	16.2	7.7	29.9	11.1	4.3	7.7	43.6	6.0	5.1	28.2	9.4	7.7	3.4	6.8	4.3
大津地域	103	10.7	30.1	16.5	51.5	15.5	11.7	22.3	12.6	2.9	11.7	39.8	5.8	4.9	29.1	3.9	12.6	1.0	5.8	3.9
浦賀地域	106	5.7	34.0	17.0	52.8	10.4	7.5	23.6	17.0	4.7	6.6	41.5	4.7	5.7	34.0	14.2	10.4	3.8	1.9	3.8
久里浜地域	140	9.3	30.7	21.4	52.1	12.1	10.7	26.4	17.1	1.4	10.7	39.3	5.7	5.7	26.4	7.9	11.4	2.1	2.9	4.3
北下浦地域	59	11.9	32.2	11.9	50.8	15.3	11.9	10.2	23.7	3.4	11.9	45.8	5.1	5.1	40.7	6.8	3.4	1.7	3.4	1.7
西地域	102	6.9	23.5	46.1	39.2	15.7	9.8	29.4	11.8	6.9	2.9	34.3	3.9	7.8	24.5	11.8	8.8	2.9	4.9	3.9

※地域別のサンプル数は884件で全体数(居住地域不詳を含む)とは異なる。

(5) 職業別 (図表VI-8)

- ・優先すべき政策として全体で最も高い回答割合を示した「地域経済の振興と雇用の安定」について職業別でみると「商店・工務店・工場等」「サービス業」「アルバイト・パートタイマー・派遣社員」で10ポイント以上高い割合となった。
- ・他方、「事務職・専門職・管理職」「販売・サービス」では、「子育て支援の充実」が全体より高い割合を示した。
- ・全体では優先すべき政策として高い割合ではなかった「都市基盤（道路・施設など）の整備」について、「保安・運輸/通信・建設/労務」で3倍近い値になった。

(図表VI-8 政策の優先度 職業別 n=885)

	件数 (人)	単位 (%)																		
		イベント などによる 集客や 定住の促 進	自然環境 の保全・ 創出	交通利便 性の向上	地域経済 の振興と 雇用の安 定	市街地整 備などに よるまち のざわり いづくり	可能な限 りの米軍 基地の返 還、自衛 隊施設の 集約統合	子育て支 援の充実	学校教育 の充実	生涯学習 の充実	障害者福 祉	高齢者福 祉	健康づく り	町内会、 自治会活 動に対す る支援	市民生活 の安全・ 安心の向 上	都市基盤 (道路・ 施設な ど)の整 備	ごみの減 量や地球 温暖化な ど環境対 策の推進	情報公開 や広報活 動の充実	市政への 市民参加 や住民自 治の推進	その他
全体	901	9.4	28.0	21.8	49.6	16.4	10.0	24.8	14.0	3.8	8.3	39.8	6.0	6.2	29.7	9.2	8.3	3.1	4.3	3.7
商店・工務店・工場等	17	5.9	23.5	17.6	58.8	41.2	17.6	11.8	17.6	5.9	-	5.9	5.9	11.8	23.5	5.9	23.5	5.9	11.8	5.9
サービス業	19	5.3	42.1	26.3	63.2	10.5	-	10.5	10.5	5.3	21.1	47.4	5.3	5.3	26.3	10.5	5.3	-	-	-
事務職・専門職・管理職	134	14.2	26.9	26.9	50.0	12.7	7.5	32.8	17.2	6.0	3.7	27.6	4.5	3.0	27.6	11.9	7.5	3.7	3.0	6.7
販売/サービス	75	10.7	33.3	18.7	42.7	18.7	6.7	42.7	14.7	-	4.0	40.0	6.7	2.7	32.0	8.0	10.7	4.0	2.7	1.3
保安・運輸/通信・建設/労務	42	7.1	35.7	21.4	45.2	19.0	14.3	16.7	9.5	4.8	7.1	26.2	4.8	4.8	33.3	26.2	2.4	-	16.7	4.8
自由業	10	20.0	40.0	10.0	40.0	30.0	20.0	20.0	10.0	-	10.0	50.0	10.0	-	10.0	10.0	-	-	10.0	-
家事専業	168	4.8	23.8	23.8	45.8	14.3	11.3	31.5	14.9	3.0	8.9	39.9	6.0	7.7	36.3	6.5	8.9	3.0	3.6	3.6
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	143	8.4	31.5	21.0	62.2	13.3	7.7	22.4	12.6	6.3	5.6	41.3	4.9	4.2	30.8	7.7	9.8	4.2	1.4	2.8
学生	46	21.7	10.9	32.6	41.3	23.9	4.3	21.7	19.6	-	6.5	30.4	4.3	15.2	23.9	13.0	15.2	2.2	2.2	6.5
無職	211	7.6	28.0	17.5	48.3	17.1	14.2	15.6	12.3	3.8	12.8	51.7	5.7	8.5	28.4	5.7	6.2	2.8	5.7	2.8
その他	19	21.1	31.6	10.5	42.1	15.8	5.3	15.8	5.3	-	21.1	47.4	21.1	5.3	15.8	21.1	5.3	5.3	5.3	-

※職業別のサンプル数は885件で全体数(職業不詳を含む)とは異なる。

「農林水産業」はサンプルが1件のため、分析から除いた。

(5) 居住年数別 (図表VI-9)

- ・全体の回答傾向と比較して、居住年数が3年以下の回答者では、「子育て支援の充実」「市街地整備などによるまちのにぎわいづくり」に対する回答割合が高くなっている。

(図表VI-9 政策の優先度 居住年数別 n=886)

	件数 (人)	単位 (%)																		
		イベントなどによる集客や定住の促進	自然環境の保全・創出	交通利便性の向上	地域経済の振興と雇用の安定	市街地整備などによるまちのにぎわいづくり	可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約統合	子育て支援の充実	学校教育の充実	生涯学習の充実	障害者福祉	高齢者福祉	健康づくり	町内会、自治会活動に対する支援	市民生活の安全・安心の向上	都市基盤(道路・施設など)の整備	ごみの減量や地球温暖化など環境対策の推進	情報公開や広報活動の充実	市政への市民参加や住民自治の推進	その他
合計	901	9.4	28.0	21.8	49.6	16.4	10.0	24.8	14.0	3.8	8.3	39.8	6.0	6.2	29.7	9.2	8.3	3.1	4.3	3.7
1年未満	10	10.0	10.0	30.0	50.0	10.0	10.0	50.0	10.0	0.0	10.0	30.0	10.0	0.0	30.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0
1-3年	33	12.1	15.2	33.3	39.4	39.4	3.0	42.4	15.2	6.1	0.0	21.2	3.0	6.1	21.2	15.2	12.1	6.1	6.1	3.0
4-9年	65	15.4	26.2	27.7	49.2	10.8	12.3	32.3	18.5	6.2	3.1	33.8	4.6	3.1	24.6	18.5	4.6	3.1	3.1	0.0
10-14年	50	14.0	20.0	34.0	44.0	10.0	8.0	34.0	24.0	2.0	6.0	28.0	4.0	4.0	36.0	14.0	10.0	2.0	2.0	2.0
15-19年	68	13.2	17.6	23.5	47.1	22.1	7.4	26.5	14.7	4.4	7.4	35.3	8.8	8.8	33.8	8.8	7.4	2.9	1.5	5.9
20-24年	61	19.7	16.4	23.0	47.5	16.4	9.8	24.6	11.5	4.9	8.2	37.7	9.8	4.9	29.5	8.2	6.6	3.3	6.6	8.2
25年以上	599	6.8	32.2	19.0	51.3	15.7	10.7	21.9	12.7	3.5	9.7	43.2	5.2	6.8	29.7	7.5	8.5	3.2	4.5	3.7

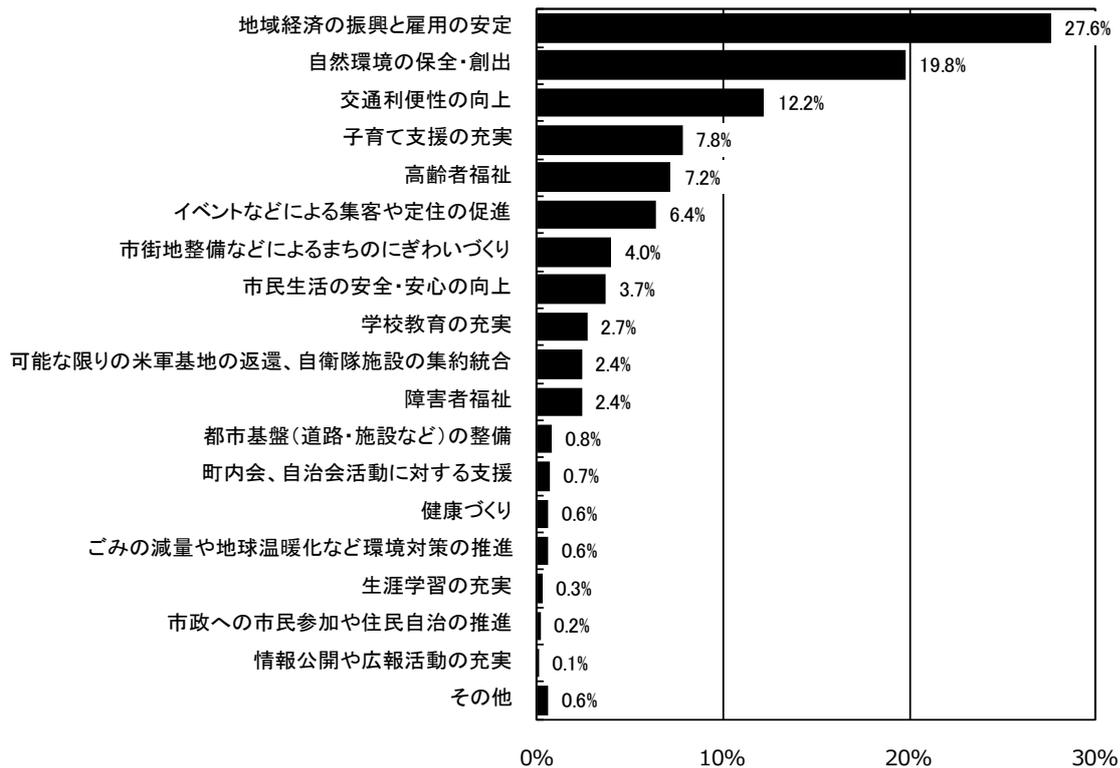
※居住年数別のサンプル数は886件で全体数(居住年数不詳を含む)とは異なる。

【優先すべき政策 順位別の傾向】

①1 番目に優先すべき政策（図表VI-10）

- ・ 優先すべき政策として1位に選択された政策は、「地域経済の振興と雇用の安定」（27.6%）で2位の「自然環境の保全・創出」（19.8%）と比べて約8ポイントの差がある。これらに次いで、「交通利便性の向上」（12.2%）が多く選択されている。

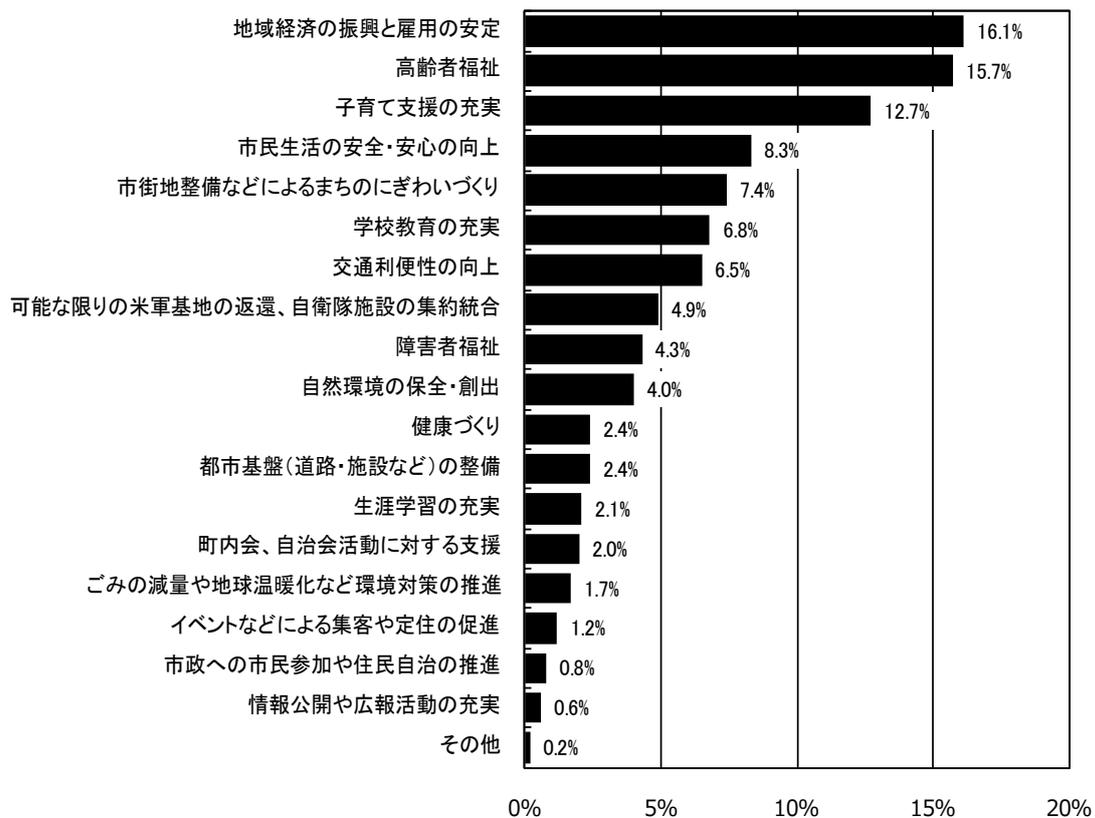
（図表VI-10 政策の優先度 1番目に優先すべき政策 n=901）



② 2番目に優先すべき政策（図表VI-11）

- ・ 優先すべき政策の2番目に選択された政策の1位は、1番目と同様に「地域経済の振興と雇用の安定」(16.1%)であった。
- ・ 2位以降は「高齢者福祉」(15.7%)、「子育て支援の充実」(12.7%)が続き、1番目に選択された政策とは傾向が異なる。

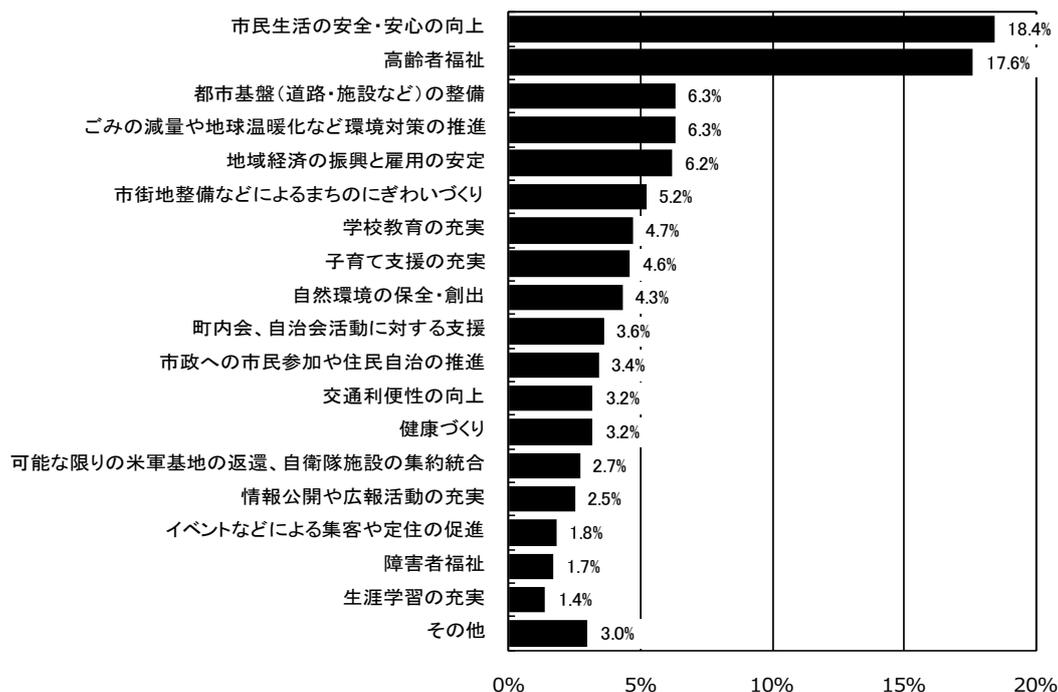
(図表VI-11 政策の優先度 2番目に優先すべき政策 n=893)



### ③ 3番目に優先すべき政策（図表VI-12）

- ・優先すべき政策の3番目に選択された政策の1位は、「市民生活の安全・安心の向上」（18.4%）、2位は「高齢者福祉」（13.6%）で、3位以降は、政策の選択割合に大きな差がみられない。

（図表VI-12 政策の優先度 3番目に優先すべき政策 n=877）



### ④ 優先すべき政策全体と順位別の傾向（図表VI-13）

- ・優先すべき政策について順位別の状況を見ると、全体で最も高い割合を示した「地域経済の振興と雇用」は1番目、2番目で回答が最も多くなっており、最も重要な政策として捉えられている。
- ・全体では高い割合を示した「高齢者福祉」「市民生活の安全・安心の向上」「子育て支援」は、1番目としての回答割合は少ないものの、2番目や3番目で高い割合を示しており、重要な政策として捉えられている。
- ・他方、「自然環境の保全・創出」「交通利便性の向上」は1番目に選択している回答者が多い反面、2番目・3番目での回答割合が低く、全体の順位は若干、低くなっている。

(図表VI-13 政策の優先度 優先すべき政策全体と順位別の傾向 n=901)

項目名	回答数・回答割合		全体		1番目		2番		3番	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
地域経済の振興と雇用の安定	447	49.6	249	27.6	144	16.1	54	6.2		
高齢者福祉	359	39.8	65	7.2	140	15.7	154	17.6		
市民生活の安全安心の向上	268	29.7	33	3.7	74	8.3	161	18.4		
自然環境の保全・創出	252	28.0	178	19.8	36	4.0	38	4.3		
子育て支援の充実	223	24.8	70	7.8	113	12.7	40	4.6		
交通利便性の向上	196	21.8	110	12.2	58	6.5	28	3.2		
市街地整備などによるまちのにぎわいづくり	148	16.4	36	4.0	66	7.4	46	5.2		
学校教育の充実	126	14.0	24	2.7	61	6.8	41	4.7		
可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約統合	90	10.0	22	2.4	44	4.9	24	2.7		
イベントなどによる集客や定住の促進	85	9.4	58	6.4	11	1.2	16	1.8		
都市基盤（道路・施設など）の整備	83	9.2	7	0.8	21	2.4	55	6.3		
障害者福祉	75	8.3	22	2.4	38	4.3	15	1.7		
ごみの減量や地球温暖化などの環境対策の推進	75	8.3	5	0.6	15	1.7	55	6.3		
町内会、自治会活動に対する支援	56	6.2	6	0.7	18	2.0	32	3.6		
健康づくり	54	6.0	5	0.6	21	2.4	28	3.2		
市政への参加や住民自治の推進	39	4.3	2	0.2	7	0.8	30	3.4		
生涯学習の充実	34	3.8	3	0.3	19	2.1	12	1.4		
情報公開や広報活動の充実	28	3.1	1	0.1	5	0.6	22	2.5		
その他	33	3.7	5	0.6	2	0.2	26	3.0		
サンプル数 (n=)			901		893		877			

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれのサンプル数は異なる。

## 基本計畫進行管理編

## IV 基本計画の進行管理について

### (1) 目的

基本計画で掲げる政策（中柱）の進捗状況を確認、評価し、その実現に向け事業の改善をはかること。

### (2) 実施方針

- 計画の進行管理は「第5章 まちづくり政策」・「第6章 まちづくりの推進姿勢」の政策（中柱）単位で行う。
- 市民の実感（主観的要素）と行政活動の目標となる「指標」の動向（客観的要素）の2つの組み合わせにより、政策（中柱）の進捗状況を確認、評価する。なお、市民の実感についてはアンケート調査で把握する。

### (3) 進行管理のスケジュール等

進行管理に必要な市民アンケートおよび指標の動向調査は、実施計画策定の前年の決算後に行う。これに伴い「指標」の目標値は2年後、6年後、10年後で置く。

### (4) 進行管理の具体的手法

#### ①市民アンケートによる政策（中柱）の進捗状況の把握

- アンケートは政策（中柱）単位で設問し、回答は「①感じる ②やや感じる ③どちらともいえない ④あまり感じない ⑤感じない ⑥わからない」の6項目を設定する。
- 設問ごとに回答の「平均スコア※」を算出し、その状況により政策（中柱）の進捗状況を判定する。

#### ※「平均スコア」

「回答項目」それぞれにポイントを付し、回答数を乗じて得られた数値を、総回答数で除して数値化したもの（次表参照）。平均スコアがプラスの場合は、政策（中柱）が良好に進捗している傾向、マイナスであれば停滞の傾向にあるという見方ができる。

全ての回答者が①「感じる」を選択した場合、平均スコアが最大値となり、③「どちらともいえない」を選択した場合は0となる。

【平均スコア算出のための回答のポイント】

	回答項目	ポイント
①	感じる	+ 2
②	やや感じる	+ 1
③	どちらともいえない	0
④	あまり感じない	△ 1
⑤	感じない	△ 2
⑥	わからない	

※「△」はマイナスを表す

【市民アンケートから見た政策（中柱）の進捗状況の判定例】

基準年のアンケート結果	次期アンケート結果 (前回アンケートとの平均スコア比較)	判定結果
平均スコア (プラス)	上昇・横ばい	A
	下降 (プラスの状態)	A
	下降 (ゼロの状態)	B
	下降 (マイナスの状態)	C
平均スコア (ゼロ)	上昇	A
	横ばい	B
	下降	C
平均スコア (マイナス)	上昇 (プラスの状態)	A
	上昇 (ゼロかマイナスの状態)	B
	横ばい・下降	C

## V 集計結果

### VII 市の政策に対する実感

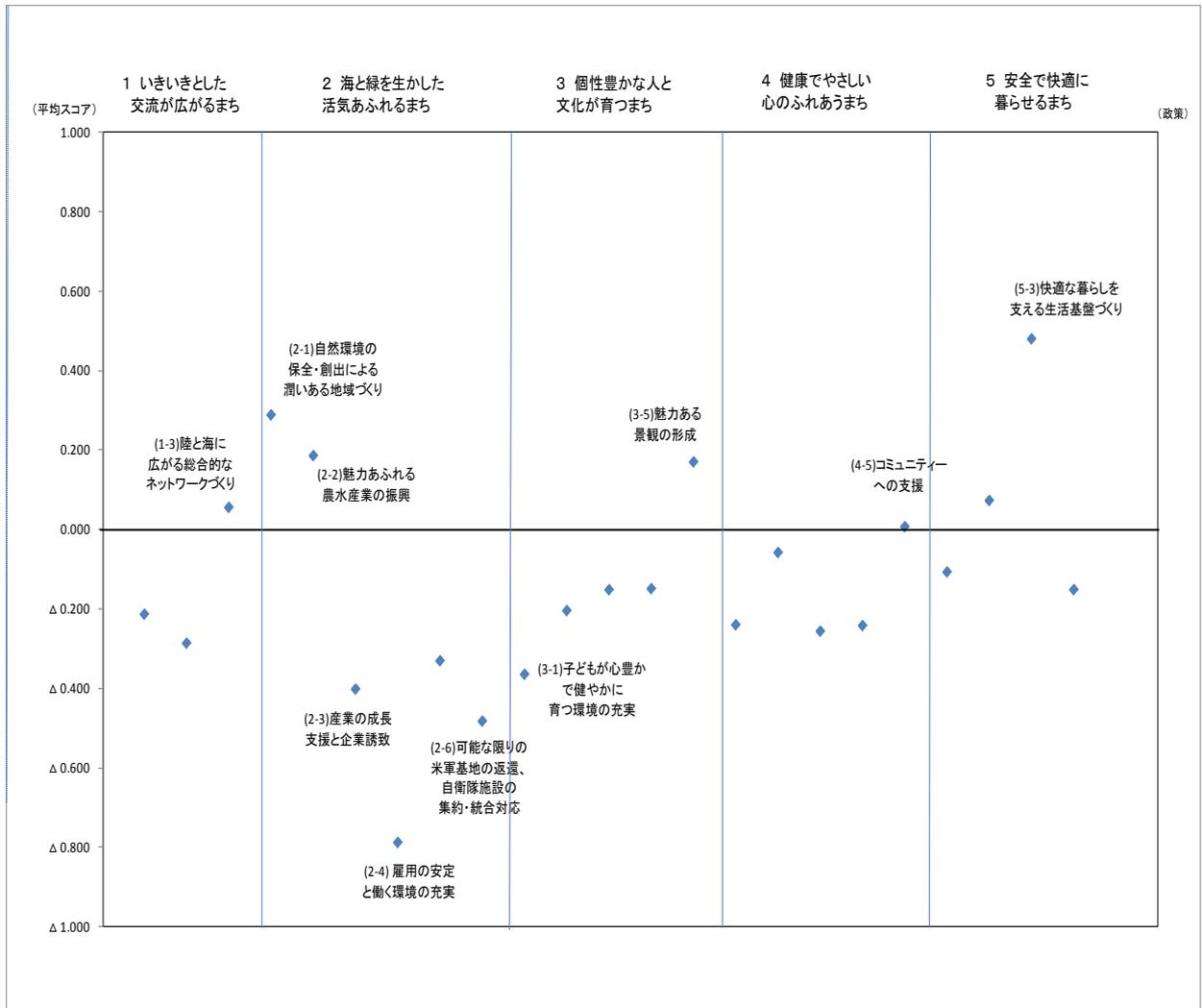
問 14 は、基本計画に掲げたまちづくり政策（大柱） およびまちづくりの推進姿勢における政策（中柱）の推進状況に対する実感について、次の回答項目（①感じる ②やや感じる ③どちらとも言えない ④あまり感じない ⑤感じない ⑥わからない）を設定し調査した。（調査票参照）

#### (1) まちづくり政策の推進状況

図表Ⅶ－1 は、政策（中柱）ごとに平均スコアをもとめ図示したものの。

- ・まちづくり政策で掲げた 23 の政策（中柱）のうち平均スコアがプラスの状態に位置するのは、七つの政策で全体の 3 割にとどまった。
- ・23 の政策（中柱）のうち平均スコアが最も高い値を示したものは「(5-3) 快適な暮らしを支える生活基盤づくり」で、上下水道、道路、公園などのインフラ整備については、ある程度充足されていると感じる市民が多いという見方ができる。本政策については「問 13 優先すべき政策」の回答割合も低い傾向が示されている。  
これに次ぐ政策は、「(2-1) 自然環境の保全・創出による潤いある地域づくり」である。
- ・一方、平均スコアがマイナスの状態に位置する政策のうち、最も低い値を示したものは「(2-4) 雇用の安定と働く環境の充実」で突出している。本政策は、「問 13 優先すべき政策」として最も回答割合の高い政策である。  
これに次いで、「(2-6) 可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合対応」「(2-3) 産業の成長支援と企業誘致」の値が低くなっている。
- ・これらはすべて、まちづくり政策の「2 海と緑を生かした活気あふれるまち」を構成する政策である。

(図表Ⅶ-1 まちづくり政策に対する市民の実感 平均スコア)



## (2)「まちづくり政策の目標」別集計結果

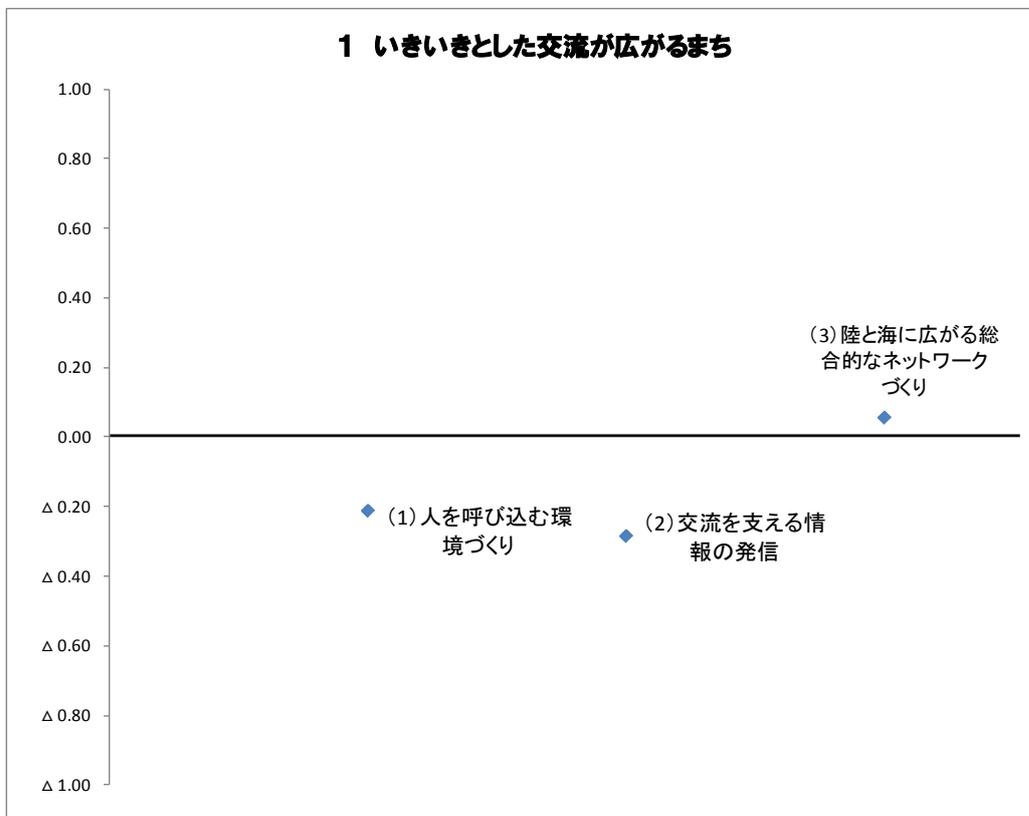
### 1 いきいきとした交流が広がるまち

・三つの政策のうち、平均スコアがプラスとなったものは「(3) 陸と海に広がるネットワークづくり」だが、プラスの値はそれほど高い値ではなく、まちづくり政策の目標に対する現時点での市民の実感は低い状況にあると言える。

(図表VII-2 「1 いきいきとした交流がひろがるまち」に対する市民の実感 回答割合と平均スコア)

まちづくり政策の目標	政策	設問	件数/ 割合 (%)	感じる	やや感じる	どちらとも 言えない	あまり感 じない	感じない	わからな い	平均スコア
1 いきいきとした 交流が広がるまち	(1) 人を呼び込む環境づくり	市外からの集客につながる魅力的なイベントの開催や、定住に結びつく取り組みが進められている。	880	35	243	160	281	110	51	△ 0.214
			100	4.0	27.6	18.2	31.9	12.5	5.8	-
	(2) 交流を支える情報の発信	市外からの集客につながる魅力やイベント情報の発信が積極的に行われている。	879	37	200	188	268	129	57	△ 0.287
			100	4.2	22.8	21.4	30.5	14.7	6.5	-
	(3) 陸と海に広がる総合的なネットワークづくり	近隣の都市とつながる道路や港湾の整備など、市民や事業者、来訪者が利用しやすい交通網づくりが進められている。	882	81	281	185	172	111	52	0.056
			100	9.2	31.9	21.0	19.5	12.6	5.9	-

(図表VII-3 「1 いきいきとした交流がひろがるまち」に対する市民の実感 平均スコア)



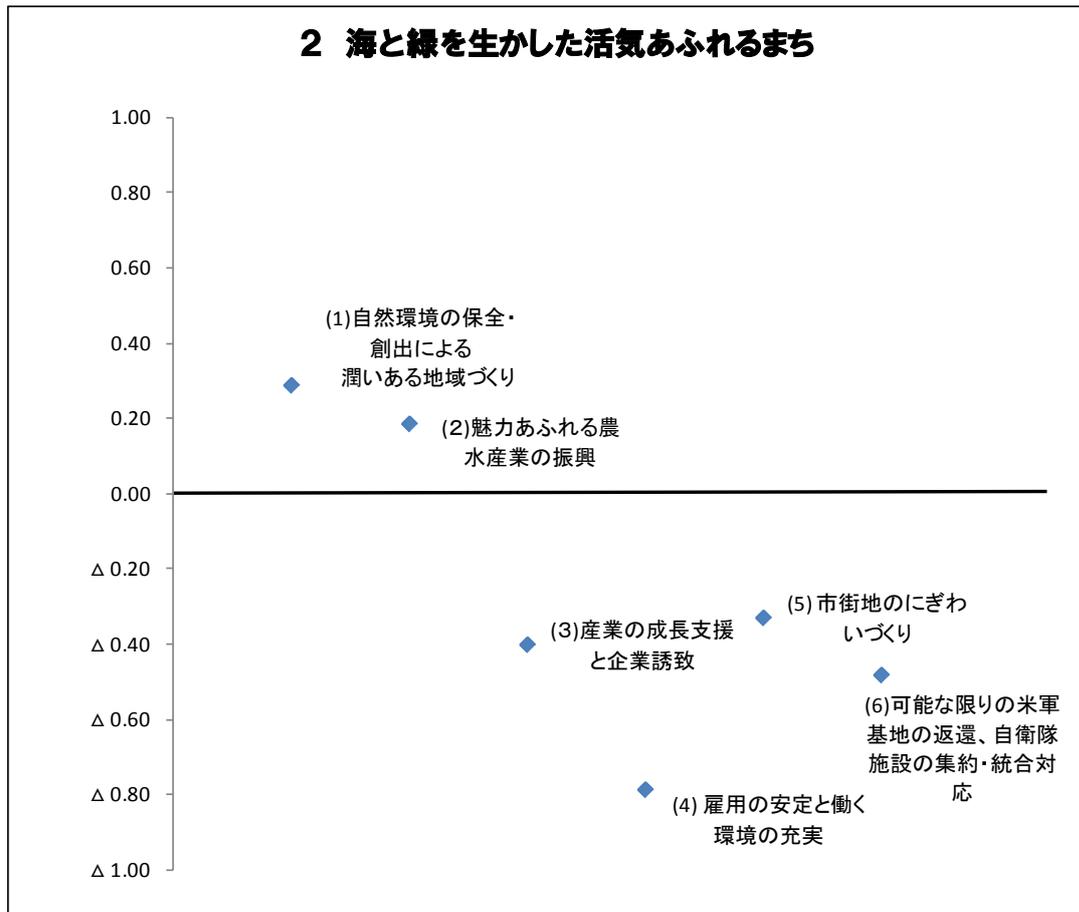
## 2 海と緑を生かした活気あふれるまち

- ・六つの政策（中柱）のうち平均スコアがプラスを示したものは六つで、特に「(1)自然環境の保全・創出による潤いある地域づくり」は、政策（中柱）全体でも、2番目に高いスコアとなっており、問1で市の魅力として多くの市民に支持されている自然環境の豊かさが、政策に対する実感に結び付いていると考えられる。
- ・また、「(2)魅力あふれる農水産業の振興」もプラスを示している。これについては、地産地消の取り組みによる効果が少なからず市民の実感に影響を与えているものと考えられる。
- ・一方、平均スコアがマイナスとなった政策（中柱）のうち、「(4)雇用の安定と働く環境の充実」「(6)可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合対応」は政策全体のなかで最も低いスコアを示しており、当該まちづくり政策の目標（大柱）を構成する政策に対する実感には大きな差がみられる。

(図表Ⅶ-4 「2 海と緑を生かした活気あふれるまち」に対する市民の実感 回答割合と平均スコア)

まちづくり政策の目標	政策	設問	件数/ 割合 (%)	感じる	やや感じる	どちらとも 言えない	あまり感 じない	感じない	わからな い	平均スコア
2 海と緑を生かした活気あふれるまち	(1)自然環境の保全・創出による潤いある地域づくり	海や緑、川などの自然環境の保全、自然豊かな公園・緑地の整備など、住んでいる人、訪れる人に潤いやゆとりを生むための取り組みが進められている。	884	94	355	187	148	70	30	0.288
		100	10.6	40.2	21.2	16.7	7.9	3.4	-	
	(2)魅力あふれる農水産業の振興	農業や漁業が生産地としてだけでなく、観光などさまざまな場面で活用されている。	877	97	300	175	187	72	46	0.186
		100	11.1	34.2	20.0	21.3	8.2	5.2	-	
	(3)産業の成長支援と企業誘致	新たな企業・研究機関の進出や地域企業の活動に対する支援が進められている。	872	31	112	193	249	138	149	△ 0.403
		100	3.6	12.8	22.1	28.6	15.8	17.1	-	
	(4)雇用の安定と働く環境の充実	仕事に就くための支援が適切に行われている。また、勤労者の労働環境を改善する取り組みが進められている。	871	11	40	185	275	237	123	△ 0.789
		100	1.3	4.6	21.2	31.6	27.2	14.1	-	
	(5)市街地のにぎわいづくり	商業施設や住居が駅など地域の拠点に集約され、魅力やにぎわいが生まれている。一方、郊外の住宅団地などについては良好な環境が保たれている。	876	35	191	218	207	172	53	△ 0.331
		100	4.0	21.8	24.9	23.6	19.6	6.1	-	
	(6)可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合対応	現状を踏まえた中で、可能な限り米軍基地の返還や自衛隊施設の集約・統合に向けた要請活動などが行われている。	869	13	85	234	191	170	176	△ 0.483
		100	1.5	9.8	26.9	22.0	19.6	20.3	-	

(図表Ⅶ-5 「2 海と緑を生かした活気あふれるまち」に対する市民の実感 平均スコア)



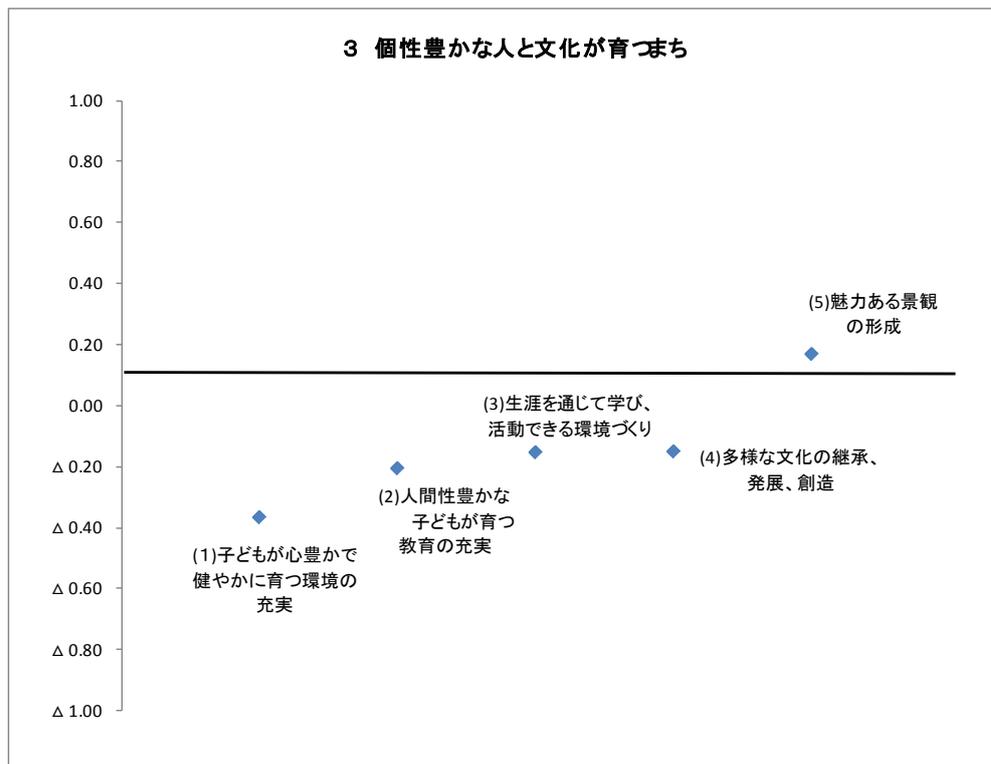
### 3 個性豊かな人と文化が育つまち

- ・五つの政策（中柱）のうち平均スコアがプラスを示したものは「(5) 魅力ある景観の形成」のみで、他はすべてマイナスに位置する。
- ・特に、「子育て」「教育」に関する政策についてはマイナスの値が大きく、現状として当該まちづくり政策の目標（大柱）に対する市民の実感は厳しい状況にあると言える。

(図表Ⅶ-6 「3 個性豊かな人と文化が育つまち」に対する市民の実感 回答割合と平均スコア)

まちづくり政策の目標	政策	設問	件数/ 割合 (%)	感じる	やや感じる	どちらとも 言えない	あまり感 じない	感じない	わからな い	平均スコア
3 個性豊かな人と文化が育つまち	(1)子どもが心豊かで健やかに育つ環境の充実	子どもを産み育てやすく、また、子どもが健やかに育つ環境づくりが進められている。	871	25	125	211	213	140	157	△ 0.365
			100	2.9	14.4	24.2	24.5	16.1	18.0	-
	(2)人間性豊かな子どもが育つ教育の充実	子どもの「学力」「心」「体」がバランスよく育成されている。また、英語、パソコンなどを活用した独自性のある教育が充実している。	870	25	130	201	188	85	241	△ 0.205
			100	2.9	14.9	23.1	21.6	9.8	27.7	-
	(3)生涯を通じて学び、活動できる環境づくり	生涯を通じて学びやスポーツ活動ができる、また、その活動の成果を地域に還元できる環境づくりが進められている。	868	31	192	217	194	96	138	△ 0.152
			100	3.6	22.1	25	22.4	11.1	15.9	-
	(4)多様な文化の継承、発展、創造	地域の伝統文化を含め、多様な文化が継承、創出されている。また、優れた芸術文化に親しむ環境がある。	864	38	212	214	199	109	92	△ 0.149
			100	4.4	24.5	24.8	23	12.6	10.6	-
	(5)魅力ある景観の形成	海や緑、歴史的な建造物などを生かした、横須賀らしい魅力ある景観づくりが進められている。	882	87	326	166	150	100	53	0.170
			100	9.9	37	18.8	17	11.3	6	-

(図表Ⅶ-7 「3 個性豊かな人と文化が育つまち」に対する市民の実感 平均スコア)



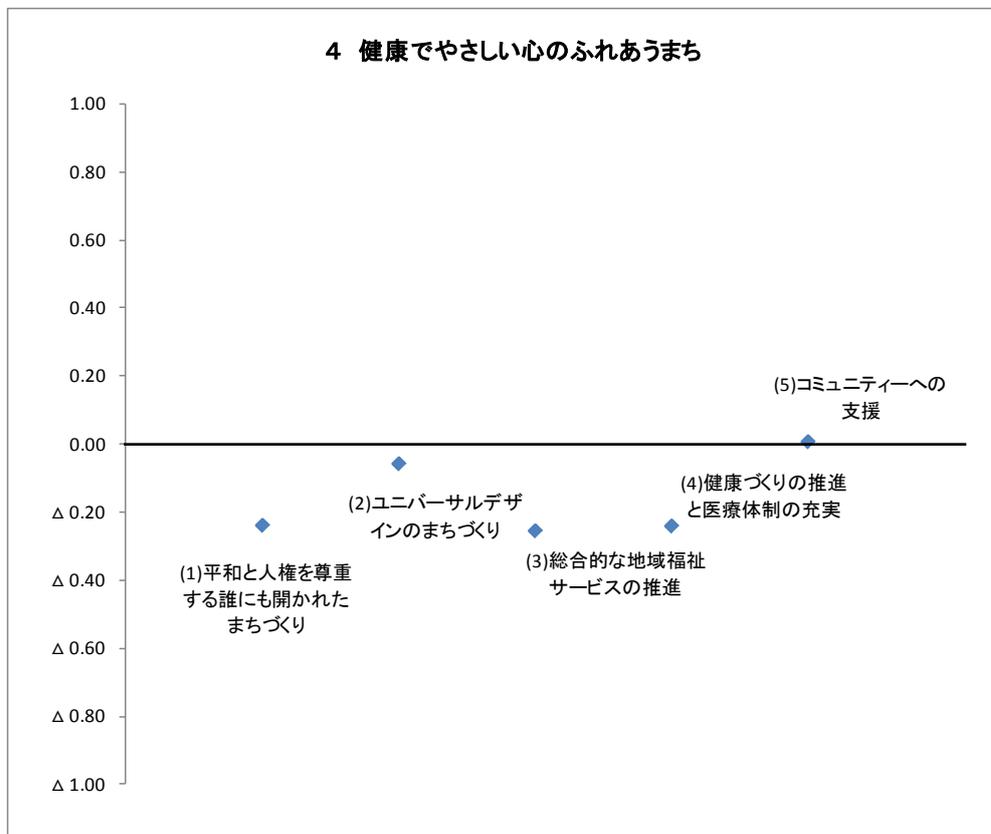
#### 4 健康でやさしい心のふれあうまち

・五つの政策（中柱）のうち平均スコアがプラスを示したものは「(5) コミュニティーへの支援」のみで、これについても平均スコアは0に近く、当該まちづくり政策の目標（大柱）に対する、市民の実感は厳しい状況にあると言える。

(図表VII-8「4 健康でやさしい心のふれあうまち」に対する市民の実感 回答割合と平均スコア)

まちづくり政策の目標	政策	設問	件数/ 割合 (%)	感じる	やや感じる	どちらとも 言えない	あまり感 じない	感じない	わからな い	平均スコア
4 健康でやさしい心のふれあうまち	(1) 平和と人権を尊重する誰にも開かれたまちづくり	平和と人権が尊重される社会環境づくりが進められている。	861	31	125	278	186	104	137	△ 0.240
			100	3.6	14.5	32.3	21.6	12.1	15.9	-
	(2) ユニバーサルデザインのまちづくり	誰もが、気軽に出かけたり、安心して利用できる施設づくりが進められている。また、さまざまな活動に参加できる環境づくりが進められている。	875	46	236	248	181	99	65	△ 0.058
			100	5.3	27	28.3	20.7	11.3	7.4	-
	(3) 総合的な地域福祉サービスの推進	誰もが、その人らしく生活できるような福祉サービスが提供されている。また、そのための人づくりや環境づくりが進められている。	877	33	171	222	194	134	123	△ 0.257
			100	3.8	19.5	25.3	22.1	15.3	14	-
	(4) 健康づくりの推進と医療体制の充実	生涯を通じて心身ともに健康でいるための取り組みや、安心して医療サービスを受けられる環境づくりが進められている。	879	46	191	220	186	155	81	△ 0.242
			100	5.2	21.7	25	21.2	17.6	9.2	-
	(5) コミュニティーへの支援	町内会や自治会活動をはじめ、福祉や教育などさまざまなテーマの自主活動が活発に行われている。	879	58	233	222	151	96	119	0.007
			100	6.6	26.5	25.3	17.2	10.9	13.5	-

(図表VII-9「4 健康でやさしい心のふれあうまち」に対する市民の実感 平均スコア)



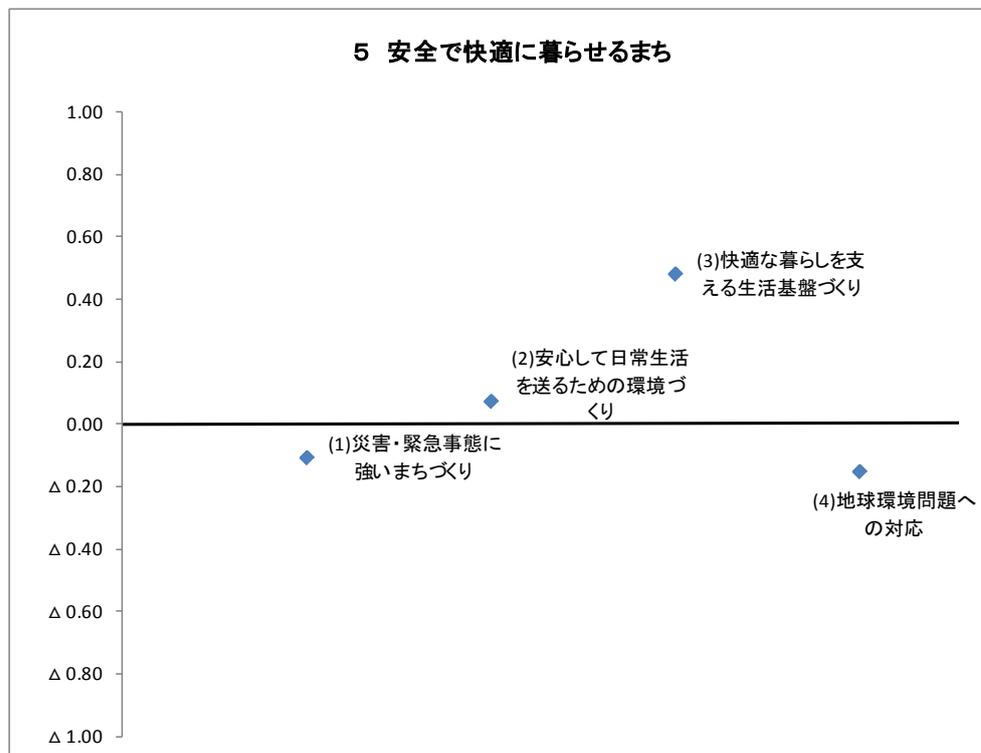
## 5 安全で快適に暮らせるまち

- ・四つの政策（中柱）のうち特に「(3)快適な暮らしを支える生活基盤づくり」は、政策（中柱）全体でも、最もプラス値が高い値を示した。
- ・平均スコアがマイナスとなった政策（中柱）についても、マイナスの値はそれほど大きくはなく、当該まちづくり政策の目標（大柱）に対する、現時点での市民の実感はいずれも概ね良好な状況にあると言える。

(図表Ⅶ-10 「5 安全で快適に暮らせるまち」に対する市民の実感 回答割合と平均スコア)

5 安全で快適に暮らせるまち	(1)災害・緊急事態に強いまちづくり	公共施設の耐震化や市民による防災活動など危機管理の体制が充実し、災害・緊急事態のときに不安を感じることはないまちづくりが進められている。	876	46	243	211	179	125	72	△ 0.107
			100	5.3	27.7	24.1	20.4	14.3	8.2	—
	(2)安心して日常生活を送るための環境づくり	環境保全、消防・救急・救助、防犯、交通安全、消費者保護など、安心して日常生活を送るための対策が進められている。	879	59	281	224	159	88	68	0.073
			100	6.7	32	25.5	18.1	10	7.7	—
	(3)快適な暮らしを支える生活基盤づくり	水道、下水道、ごみ処理、道路・交通環境、公園、河川管理など、市民の快適な暮らしを支える生活基盤づくりが適切に進められている。	881	104	401	188	104	41	43	0.480
			100	11.8	45.5	21.3	11.8	4.7	4.9	—
	(4)地球環境問題への対応	温暖化対策など地球規模の問題に対して、市民、事業者、市役所など、さまざまな主体による取り組みが進められている。	876	36	171	229	198	89	153	△ 0.152
			100	4.1	19.5	26.1	22.6	10.2	17.5	—

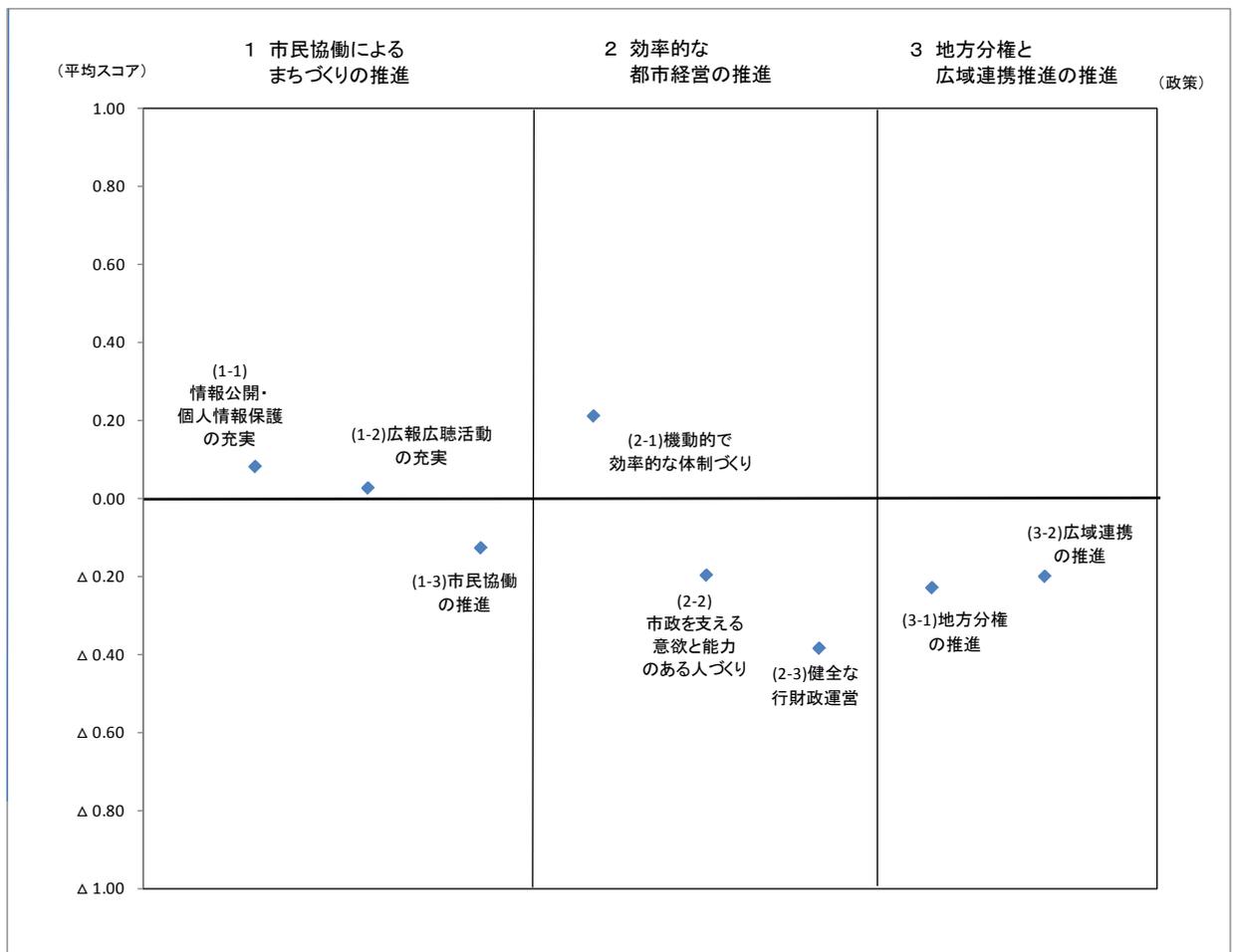
(図表Ⅶ-11 「5 安全で快適に暮らせるまち」に対する市民の実感 平均スコア)



### (3)まちづくりの推進姿勢の状況

- ・まちづくりの推進姿勢で掲げた八つの政策（中柱）のうち、平均スコアがプラスに位置するものは、三つで、全体の4割弱にとどまった。
- ・八つの政策（中柱）のうち最も高い値を示したものは「(2-1) 機動的で効率的な体制づくり」で、市役所の利用のしやすさ、情報システムの利用による手続きの便利さなどが一定の評価をされていると考えられる。
- ・一方、平均スコアがマイナスの状態に位置する政策のうち、最も低いものは、「(2-3) 健全な行財政運営」で、国・地方の債務が膨れ上がる中で、将来的にも不安のない都市経営について、現時点では市民の実感が得られていないと考えられる。

(図表Ⅶ-12 まちづくりの推進姿勢に対する市民の実感 平均スコア)



(図表Ⅶ-13 まちづくりの推進姿勢に対する市民の実感 回答割合と平均スコア)

まちづくりの推進姿勢	政策	設問	件数/ 割合 (%)	感じる	やや感じる	どちらとも 言えない	あまり感 じない	感じない	わからな い	平均スコア
1 市民協働による まちづくりの推進	(1)情報公開・個人情報保護の充 実	必要とする情報や市役所の活動 状況が積極的に公開されてい る。また、個人情報保護の適切な管 理が行われている。	877	51	227	221	122	68	188	0.081
			100	5.8	26.9	25.2	13.9	7.8	21.4	—
	(2)広報広聴活動の充実	すべての市民に分かりやすい広 報活動が行われている。 また、多くの市民から意見を聞 く活動やさまざまな相談への対 応が適切に行われている。	878	48	242	244	143	86	115	0.026
			100	5.5	27.6	27.8	16.3	9.8	13.1	—
	(3)市民協働の推進	市民や民間団体が行う公益的な 活動への支援が適切に行われて いる。また、市の事業に市民や 事業者が積極的に参画するな ど、協働による取り組みが進め られている。	870	23	125	258	153	64	247	△ 0.126
			100	2.6	14.4	29.7	17.6	7.4	28.4	—
まちづくりの推進姿勢	政策	設問	件数/ 割合 (%)	感じる	やや感じる	どちらとも 言えない	あまり感 じない	感じない	わからな い	平均スコア
2 効率的な 都市経営の推進	(1)機動的で効率的な体制づくり	対応が迅速で、利用しやすい市 役所になっている。また、情報 システムの利用により手続き等 が便利になっている。	881	94	292	188	115	90	102	0.210
			100	10.7	33.1	21.3	13.1	10.2	11.6	—
	(2)市政を支える意欲と能力のあ る人づくり	市の職員は、市民や市の将来の ために熱意を持って働いてい る。	877	53	173	209	159	146	137	△ 0.196
			100	6	19.7	23.8	18.1	16.6	15.6	—
	(3)健全な行政運営	事業の見直しなど、行政改革 が適切に行われ、将来に不安の ない健全な都市経営が進められ ている。	873	19	98	234	172	149	201	△ 0.383
			100	2.2	11.2	26.8	19.7	17.1	23	—
まちづくりの推進姿勢	政策	設問	件数/ 割合 (%)	感じる	やや感じる	どちらとも 言えない	あまり感 じない	感じない	わからな い	平均スコア
3 地方分権と 広域連携の推進	(1)地方分権の推進	横須賀ならではの取り組みが充 実し、都市としての自立性が高 まっている。また、住民が主体 的に地域づくりに参画してい る。	872	22	147	244	164	113	182	△ 0.228
			100	2.5	16.9	28	18.8	13	20.9	—
	(2)広域連携の推進	観光分野や日常生活に関連する 課題に対して、近隣自治体や他 地域の都市との協力や連携によ る取り組みが進められている。	874	21	142	216	150	104	241	△ 0.199
			100	2.4	16.2	24.7	17.2	11.9	27.6	—

## VI 基本的な属性(F1～F7)

### 性別(F1)

項目	回答人数	構成比 (%) (無回答を除く)
総回答数	914	—
男性	379	42.4
女性	514	57.6
無回答	21	—

### 年齢(F2)

項目	回答人数	構成比 (%) (無回答を除く)
総回答数	914	—
15～19歳	38	4.3
20～24歳	31	3.5
25～29歳	35	3.9
30～34歳	51	5.7
35～39歳	83	9.3
40～44歳	72	8.1
45～49歳	60	6.7
50～54歳	68	7.6
55～59歳	96	10.7
60～64歳	88	9.8
65～69歳	98	11.0
70～74歳	104	11.6
75歳以上	70	7.8
無回答	20	—

### 居住地域(F3)

項目	回答人数	構成比 (%) (不明を除く)
回答数	914	—
本庁地域	128	14.3
追浜地域	69	7.7
田浦地域	41	4.6
逸見地域	23	2.6
衣笠地域	118	13.2
大津地域	103	11.5
浦賀地域	107	12.0
久里浜地域	141	15.8
北下浦地域	59	6.6
西地域	103	11.5
不明	22	—

#### 職業(F4)

項目	回答人数	構成比 (%) (不明を除く)
回答数	914	—
農林漁業	1	0.1
自営 (商店・工務店・工場等)	17	1.9
自営 (サービス業)	19	2.1
会社員・公務員 (事務職・専門職・管理職)	134	15.0
会社員・公務員 (販売/サービス)	75	8.4
会社員・公務員 (保安・運輸/通信・建設/労務)	42	4.7
自由業	10	1.1
家事専業	170	19.1
アルバイト・パートタイマー ・派遣社員	144	16.1
学生	46	5.2
無職	215	24.1
その他	19	2.1
不明	22	—

#### 世帯の状況(F5)

項目	回答人数	構成比 (%)
回答数	914	—
0歳～14歳の子どもがいる	154	16.7
65歳以上の高齢者がいる	325	35.6
単身世帯	132	14.4
無回答	339	37.1

※本問における「無回答」は選択肢以外の世帯に属すると判断されるため、構成比の算出は全数を基準にした。

### 市内居住年数(F6)

項目	回答人数	構成比 (%) (不明を除く)
回答数	914	—
1年未満	11	1.2
1～3年	33	3.7
4～9年	65	7.3
10～14年	50	5.6
15～19年	68	7.6
20～24年	61	6.8
25年以上	606	67.8
不明	20	—

### 住居形態(F7)

項目	回答人数	構成比 (%) (不明を除く)
回答数	914	—
持ち家（一戸建て）	528	59.1
持ち家（中高層集合住宅）	135	15.1
持ち家（その他）	24	2.7
借家（一戸建て）	23	2.6
借家（民間のアパート）	55	6.2
借家（民間のマンション）	34	3.8
借家（UR（旧公団）・公社の借家）	5	0.6
借家（公営）	53	5.9
借家（社宅・官舎）	21	2.3
借家（間借り）	1	0.1
借家（その他の借家）	15	1.7
不明	20	—

調 査 票

# 総合計画市民アンケート調査票

回答は、すべて別紙の「回答用紙」にご記入ください。

## I 横須賀の魅力について伺います

問1 あなたにとって横須賀の魅力的なところは、どのようなところだと思いますか。次の中からあてはまるものを順に3つまで選んでください。

- ①教育や文化の水準が高い
- ②子育てに対する支援が充実している
- ③高齢者、障害者などへの福祉が充実している
- ④道路、公園などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である
- ⑤身近でスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会に恵まれている
- ⑥犯罪が少なく、防災面も充実し安心して暮らせる
- ⑦大都市に近く、通勤・通学に便利である
- ⑧仕事や収入の機会に恵まれている
- ⑨海や緑などの自然環境に恵まれている
- ⑩魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる
- ⑪観光資源や歴史的資産に恵まれている
- ⑫国際色豊かである
- ⑬市民のマナーが良く、快適な生活ができる
- ⑭地域での人間関係がとてもよい
- ⑮その他（具体的にお書きください）

## II 横須賀市への愛着やイメージ、住み良さについて伺います

問2 あなたは横須賀市に自分のまちとしての愛着を感じますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- ①感じている    ②やや感じている    ③どちらともいえない    ④あまり感じていない
- ⑤感じていない    ⑥よくわからない

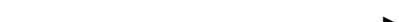
問3 あなたが考える横須賀市のイメージについて、次の中からあてはまるものを順に3つまで選び、現在の都市イメージを（A欄）に、また、望ましい都市イメージを（B欄）にそれぞれ記入してください。

- ①外国人との交流が盛んな「国際交流のまち」
- ②さまざまな分野の研究開発機関が集積する「ICT（情報通信技術）・先端技術のまち」
- ③芸術・文化活動が盛んな「文化芸術のまち」
- ④米軍基地・自衛隊がある「基地のまち」
- ⑤防犯・防災体制が整った「安全・安心なまち」
- ⑥市外から多くの人を訪れる「観光・レジャーのまち」
- ⑦豊かな自然が残されている「自然環境に恵まれたまち」
- ⑧首都圏への通勤者が多い「住宅中心のまち」
- ⑨ごみのリサイクルや地球温暖化対策など「環境にやさしいまち」
- ⑩道路、公園など都市基盤の整った「生活に便利で快適なまち」
- ⑪健康づくりのための施設や医療機関が充実した「健康増進・医療福祉のまち」
- ⑫高齢者・障害者をはじめとした「誰もが安心して暮らせるまち」
- ⑬保育所など子育て環境が充実した「子育てのまち」
- ⑭学校教育が充実した「教育のまち」
- ⑮農業・漁業が盛んな「農・漁業のまち」
- ⑯自動車産業など「工業が盛んなまち」
- ⑰商業施設が充実した「にぎわいのあるまち」
- ⑱その他（ご自由にお書きください）

問4 あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- ①住み良い                      ②まあまあ住み良い                      ③あまり住み良くない
- ④住みにくい                      ⑤よくわからない

問5 あなたは現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- ①今住んでいるところに住み続けたい       問5-1へ
- ②横須賀市内のどこかに住み続けたい       問5-1へ
- ③市外に転居したい       問5-2へ

問5-1 問5で①か②を選んだ方に伺います。横須賀市に住み続けたいというあなたの気持ちが変わるとしたら、その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを順に2つまで選んでください。

- ①教育・文化環境が今よりも悪くなる
- ②子育て環境が今よりも悪くなる
- ③道路、公園などの都市基盤が今よりも整備されず、生活環境が悪くなる
- ④交通の便が今よりも向上しない
- ⑤自然環境が今よりも豊かでなくなる
- ⑥市内での自分の商売が繁盛しなくなる
- ⑦通勤時間が大幅に長くなる場所に転勤（就職・転職）になる
- ⑧望ましい持ち家が取得できない
- ⑨望ましい借家の供給が減少する
- ⑩その他（具体的にお書きください）

問5-2 問5で③を選んだ方に伺います。市外に移りたいというあなたの気持ちが変わるとしたら、その理由は何ですか。次の中からあてはまるものを順に2つまで選んでください。

- ①教育・文化環境が今よりも良くなる
- ②子育て環境が今よりも良くなる
- ③道路、公園などの都市基盤が今よりも整備され、生活環境が良くなる
- ④交通の便が今よりも良くなる
- ⑤自然環境が今よりも豊かになる
- ⑥市内での自分の商売が繁盛する
- ⑦通勤に便利なところに転勤（就職・転職）になる
- ⑧望ましい持ち家が取得しやすくなる
- ⑨望ましい借家が今よりも供給される
- ⑩その他（具体的にお書きください）

### Ⅲ 地域活動への参加状況について伺います

問6 あなたは、地域のまちづくり活動やボランティア活動、NPO活動、市が呼びかけた市民参加型事業に参加、参画していますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- ①はい → 問6-1へ
- ②いいえ → 問6-2へ

問6-1 問6で①を選んだ方に伺います。あなたが参加、参画しているのはどのような活動ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

- ①市が呼びかけた市民参加型事業（例：花のボランティア、イベント運営ボランティアなど）
- ②地域のまちづくり活動（例：町内会・PTAの役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など）
- ③ボランティア活動（例：福祉や国際交流、環境美化、青少年の健全育成など）
- ④新たな社会的課題の解決に向けて取り組むNPO（非営利組織）の運営  
（例：環境保全活動、在宅介護支援、学童保育、人権擁護、災害救援活動など）
- ⑤その他（具体的にお書きください）

問6-2 問6で②を選んだ方に伺います。今後、これらの活動に参加、参画したいと思いますか。  
（ア）か（イ）のうち、あてはまるものを1つだけ選び、それぞれの設問に答えてください。

（ア）はい → それはどのような活動ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

- ①市が呼びかけた市民参加型事業（例：花のボランティア、イベント運営ボランティアなど）
- ②地域のまちづくり活動（例：町内会・PTAの役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など）
- ③ボランティア活動（例：福祉や国際交流、環境美化、青少年の健全育成など）
- ④新たな社会的課題の解決に向けて取り組むNPO（非営利組織）の運営  
（例：環境保全活動、在宅介護支援、学童保育、人権擁護、災害救援活動など）
- ⑤その他（具体的にお書きください）

（イ）いいえ → それはなぜですか。あなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

- ①興味はあるが、時間的余裕がない
- ②興味はあるが、きっかけや情報がない
- ③興味がない
- ④その他（具体的にお書きください）

問7【自治基本条例について】

横須賀市では、市民が主役のまちづくりを進めるための基本的ルールとなる「自治基本条例」の制定を目指し、取り組みを進めています。

あなたは、自治基本条例を知っていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

- ①内容まで知っている
- ②ある程度知っている
- ③名称は見た（聞いた）ことがある
- ④知らない

## IV 情報の入手方法、市民相談について伺います

問8【情報の入手先について】

あなたは、日常生活の中で必要な情報をどのような方法で手に入れていますか。

次の中から入手方法としてよく活用しているものを順に3つまで選んでください。

- ①テレビ
- ②ラジオ
- ③広報よこすか
- ④新聞・チラシ
- ⑤雑誌
- ⑥本
- ⑦ポスター・看板・掲示板
- ⑧ダイレクトメール
- ⑨フリーペーパー（無料配布誌）・タウン誌
- ⑩横須賀市ホームページ
- ⑪インターネット（パソコンでの利用）
- ⑫インターネット（携帯電話での利用）
- ⑬メールマガジン
- ⑭横須賀市コールセンター
- ⑮クチコミ
- ⑯その他（具体的にお書きください）

問9【市民相談】

市役所では、市政に対する意見や要望のほかに、相続や離婚などの家庭問題、近隣トラブル、多重債務問題など日常生活で生じるさまざまな問題について、市民相談室を設けて相談に応じています。

あなたは、日常生活の困りごとなどを相談する場所として、市役所は利用しやすい場所だと思います

か。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- ① 思う    ② やや思う    ③ どちらともいえない    ④ あまり思わない    ⑤ 思わない
- ⑥ わからない    ⑦ その他（具体的にお書きください）

## V 基地について伺います

### 問 10【米軍基地について】

横須賀市内にある米軍基地について、どのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

- ①あった方がよい → 問 10-1 へ
  - ②ない方がよい → 問 10-2 へ
  - ③どちらでもない
  - ④やむを得ない
  - ⑤わからない
- } 次ページ（問 11）へ

問 10-1 問 10 で①を選んだ方に伺います。①を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

- ①日本の安全上必要だから
- ②地域の経済に貢献しているから
- ③国際親善、国際交流に役立っているから
- ④災害が起こった時に心強いから
- ⑤その他（具体的にお書きください）

問 10-2 問 10 で②を選んだ方に伺います。②を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

- ①戦争の危険に巻き込まれるおそれがあるから
- ②市の中心部に位置し、本市発展の阻害要因となっているから
- ③横須賀市など特定の都市にだけ押し付けられていて不公平だから
- ④犯罪や事故が心配だから
- ⑤その他（具体的にお書きください）

問 11【自衛隊基地について】

横須賀市内にある自衛隊基地について、どのようにお考えですか。次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

- ①あった方がよい      →      問 11-1 へ
- ②ない方がよい        →      問 11-2 へ
- ③どちらでもない        }      次ページ（問 12） へ
- ④やむを得ない        }
- ⑤わからない            }

問 11-1 問 11 で①を選んだ方に伺います。①を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

- ①日本の安全上必要だから
- ②地域の経済に貢献しているから
- ③国際親善、国際交流に役立っているから
- ④災害が起こった時に心強いから
- ⑤その他（具体的にお書きください）

問 11-2 問 11 で②を選んだ方に伺います。②を選んだ理由について、次の中からあなたのお考えに近いものを1つだけ選んでください。

- ①戦争の危険に巻き込まれるおそれがあるから
- ②市の中心部に位置し、本市発展の阻害要因となっているから
- ③横須賀市など特定の都市にだけ押し付けられていて不公平だから
- ④犯罪や事故が心配だから
- ⑤その他（具体的にお書きください）

## VI 政策の優先度や市役所サービスへの満足度について伺います

横須賀市は、より一層の市民サービスの向上、個性豊かなまちづくりをめざし、さまざまな取り組みを行っています。市に対して思うこと、感じることについて次の設問にご回答ください。

### 問12【市役所サービス】

日々の暮らしにかかわる市役所のサービスに対する、あなたの「満足度」について、次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

- ① 満足している ② ほぼ満足している ③ どちらともいえない ④ やや不満である  
⑤ 不満である ⑥ わからない

### 問13【政策の優先度】

10年後、20年後の将来、横須賀市が元気で夢のもてる都市であるためには、財源に限りがある中で、今後どのような政策を重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中からあてはまるものを順に3つ選んでください。

- ① イベントなどによる集客や定住の促進  
② 自然環境の保全・創出  
③ 交通利便性の向上  
④ 地域経済の振興と雇用の安定  
⑤ 市街地整備などによるまちのにぎわいづくり  
⑥ 可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約統合  
⑦ 子育て支援の充実  
⑧ 学校教育の充実  
⑨ 生涯学習の充実  
⑩ 障害者福祉  
⑪ 高齢者福祉  
⑫ 健康づくり  
⑬ 町内会、自治会活動に対する支援  
⑭ 市民生活の安全・安心の向上  
⑮ 都市基盤（道路・施設など）の整備  
⑯ ごみの減量や地球温暖化など環境対策の推進  
⑰ 情報公開や広報活動の充実  
⑱ 市政への市民参加や住民自治の推進  
⑲ その他（具体的にお書きください）

Ⅶ 市の政策に対するあなたの実感について伺います

問 14 回答用紙のそれぞれの項目について、あてはまるところに1つずつ○をつけてください。

質問項目		回答項目					
		感じる	やや感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	感じない	わからない
1 いきいきとした交流が 広がるまち	1	【まちの魅力づくり】 市外からの集客につながる魅力的なイベントの開催や、定住に結びつく取り組みが進められている。					
	2	【魅力の発信】 市外からの集客につながる魅力やイベント情報の発信が積極的に行われている。					
	3	【交通網の整備】 近隣の都市とつながる道路や港湾の整備など、市民や事業者、来訪者が利用しやすい交通網づくりが進められている。					
2 海と緑を生かした活気あふれるまち	1	【自然環境の保全・創出】 海や緑、川などの自然環境の保全、自然豊かな公園・緑地の整備など、住んでいる人、訪れる人に潤いやゆとりを生むための取り組みが進められている。					
	2	【農水産業の振興】 農業や漁業が生産地としてだけでなく、観光などさまざまな場面で活用されている。					
	3	【新たな企業の誘致】 新たな企業・研究機関の進出や地域企業の活動に対する支援が進められている。					
	4	【雇用・労働環境の充実】 仕事に就くための支援が適切に行われている。また、勤労者の労働環境を改善する取り組みが進められている。					
	5	【市街地のにぎわいと住環境の維持・保全】 商業施設や住居が駅など地域の拠点に集約され、魅力やにぎわいが生まれている。一方、郊外の住宅団地などについては良好な環境が保たれている。					
	6	【基地への対応】 現状を踏まえた中で、可能な限り米軍基地の返還や自衛隊施設の集約・統合に向けた要請活動などが行われている。					

回答は「別紙の回答用紙」に記入してください。

		質問項目	回答項目						
			感じる	やや感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	感じない	わからない	
3	個性豊かな人と文化が育つまち	1	【出産、子育て支援】 子どもを産み育てやすく、また、子どもが健やかに育つ環境づくりが進められている。	回答は「別紙の回答用紙」に記入してください。					
		2	【教育の充実】 子どもの「学力」「心」「体」がバランスよく育成されている。また、英語、パソコンなどを活用した独自性のある教育が充実している。						
		3	【生涯学習の環境の充実】 生涯を通じて学びやスポーツ活動ができる、また、その活動の成果を地域に還元できる環境づくりが進められている。						
		4	【文化の継承、発展】 地域の伝統文化を含め、多様な文化が継承、創出されている。また、優れた芸術文化に親しむ環境がある。						
		5	【魅力ある景観の保護・創出】 海や緑、歴史的な建造物などを生かした、横須賀らしい魅力ある景観づくりが進められている。						
4	健康でやさしい心のふれあいまち	1	【平和と人権の尊重】 平和と人権が尊重される社会環境づくりが進められている。						
		2	【全ての人々に利用しやすい環境づくり】 誰もが、気軽に出かけたり、安心して利用できる施設づくりが進められている。また、さまざまな活動に参加できる環境づくりが進められている。						
		3	【地域福祉サービスの推進】 誰もが、その人らしく生活できるような福祉サービスが提供されている。また、そのための人づくりや場づくりが進められている。						
		4	【健康づくり、医療体制づくり】 生涯を通じて心身ともに健康であるための取り組みや、安心して医療サービスを受けられる環境づくりが進められている。						
		5	【地域コミュニティへの支援】 町内会や自治会活動をはじめ、福祉や教育などさまざまなテーマの自主活動が活発に行われている。						

質問項目		回答項目						
		感じる	やや感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	感じない	わからない	
5 安全で快適に暮らせるまち	1	【安心・安全なまちづくり】 公共施設の耐震化や市民による防災活動など危機管理の体制が充実し、災害・緊急事態のときに不安を感じることはないまちづくりが進められている。	<p style="text-align: center;">回答は「別紙の回答用紙」に記入してください。</p>					
	2	【安心・安全な日常生活づくり】 環境保全、消防・救急・救助、防犯、交通安全、消費者保護など、安心して日常生活を送るための対策が進められている。						
	3	【日常生活を支える基盤づくり】 水道、下水道、ごみ処理、道路・交通環境、公園、河川管理など、市民の快適な暮らしを支える生活基盤づくりが適切に進められている。						
	4	【地球温暖化対策】 温暖化対策など地球規模の問題に対して、市民、事業者、市役所など、さまざまな主体による取り組みが進められている。						

質問項目		回答項目						
		感じる	やや感じる	どちらとも言えない	あまり感じない	感じない	わからない	
市民協働によるまちづくりの推進	1	【情報公開と個人情報保護】 必要とする情報や市役所の活動状況が積極的に公開されている。また、個人情報の適切な管理が行われている。	<p style="text-align: center;">回答は「別紙の回答用紙」に記入してください。</p>					
	2	【広報・広聴活動】 すべての市民に分かりやすい広報活動が行われている。また、多くの市民から意見を聞く活動やさまざまな相談への対応が適切に行われている。						
	3	【市民協働によるまちづくり】 市民や民間団体が行う公益的な活動への支援が適切に行われている。また、市の事業に市民や事業者が積極的に参画するなど、協働による取り組みが進められている。						

		質問項目	回答項目					
			感じる	やや感じる	どちらとも言いえない	あまり感じない	感じない	わからない
効率的な都市経営の推進	1	<p><b>【迅速で、便利な市役所】</b> 対応が迅速で、利用しやすい市役所になっている。また、情報システムの利用により手続き等が便利になっている。</p>	<p>回答は「別紙の回答用紙」に記入してください。</p>					
	2	<p><b>【市政を支える意欲と能力のある職員の育成】</b> 市の職員は、市民や市の将来のために熱意を持って働いている。</p>						
	3	<p><b>【健全な行財政運営】</b> 事業の見直しなど、行財政改革が適切に行われ、将来に不安のない健全な都市経営が進められている。</p>						
地方分権と広域連携の推進	1	<p><b>【独自性のある市政運営と住民自治】</b> 横須賀ならではの取り組みが充実し、都市としての自立性が高まっている。また、住民が主体的に地域づくりに参画している。</p>						
	2	<p><b>【他都市との連携による市政運営】</b> 観光分野や日常生活に関連する課題に対して、近隣自治体や他地域の都市との協力や連携による取り組みが進められている。</p>						



地域別一覧表

(町名)	(地域別)
稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、 佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、 日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、 緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町	 <u>本庁地域</u>
浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、 鷹取、夏島町、浜見台	 <u>追浜地域</u>
田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、 船越町、港が丘	 <u>田浦地域</u>
安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町	 <u>逸見地域</u>
阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、 小矢部、平作、森崎	 <u>衣笠地域</u>
池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸	 <u>大津地域</u>
浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、 二葉、南浦賀、吉井	 <u>浦賀地域</u>
岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、 佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台	 <u>久里浜地 域</u>
栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘	 <u>北下浦地 域</u>
秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、 須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台	 <u>西地域</u>

## 総合計画市民アンケート報告書

発行年月：平成 23 年（2011 年）7 月

編集・発行 横須賀市政策推進部政策推進課（都市政策研究所）

〒238-8550

横須賀市小川町 11 番地

電話 0 4 6 - 8 2 2 - 8 2 5 8

HP： <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/>